

第6次留寿都村総合計画等の策定に伴う  
アンケート調査結果報告書

令和2年1月

留寿都村



# 目 次

## I. アンケート調査の概要

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象及び調査方法	1
(3) 回収結果	2
2. 本報告書の留意事項	2
(1) 本報告書の数字の取り扱いについて	2

## II. 一般住民アンケート調査の結果

1. 回答者の属性	5
(1) 性別	5
(2) 年齢	5
(3) 職業	5
(4) 居住歴	6
(5) 居住地区	6
2. 調査の結果	7
1. 住みよさ・愛着度・定住意向などについて	7
(1) 村の住みよさ	7
(2) 村への愛着度	9
(3) 今後の定住意向	11
(4) 村の魅力	13
(5) 村の不十分なところ	16
2. 村の現状と今後の取り組みについて	19
(1) 村の各環境に関する満足度	19
(2) 村の各環境に関する重要度	22
(3) 満足度と重要度の相関（優先度）	25
(4) 今後の村づくりの特色	29
3. 日頃の行動などについて	31
(1) 広報るすつ	31
(2) 村のホームページ	32
(3) 村内の商店での買物	33
(4) 緑化活動	34
(5) 環境に配慮した生活	35

(6) 3R運動	36
(7) 災害時の避難路・避難場所	37
(8) 健康増進のための取り組み	38
(9) 地域のコミュニティ活動への参加	39
(10) 地域福祉活動への参加	40
(11) 村の講座や教室等を利用した生涯学習活動	41
(12) 週1回以上のスポーツ活動	42
(13) スマートフォンや携帯電話の利用	43
4. 参画・協働の村づくりについて	44
(1) 住民参画・協働の村づくりを進めるために必要なこと	44
5. 人口減少対策について	46
(1) 村内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと	46
(2) 村外からの移住促進のために力を入れるべきこと	48
(3) 住民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと	50
(4) 住み続けたい生活環境整備のため力を入れるべきこと	52

# I. アンケート調査の概要



# 1. 調査の概要

## (1) 調査の目的

本調査は、第6次留寿都村総合計画（2021年度～2030年度）の策定にあたって、村への愛着度や村の魅力、村の不足しているところをはじめ、一般住民の意識やニーズの動向を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

## (2) 調査対象及び調査方法

	一般住民 アンケート調査
調査対象	18歳以上の住民
配布数	1,000
抽出法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	平成31年4月

### (3) 回収結果

	一般住民 アンケート調査
有効回収数	327
有効回収率	32.7%

## 2. 本報告書の留意事項

### (1) 本報告書の数字の取り扱いについて

- ① 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 設問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④ 一般住民アンケート調査結果の問2以降の年齢別の分析について、10代の回答者数が少ない(5人)ため、20代とあわせて「10・20代」として分析しています。



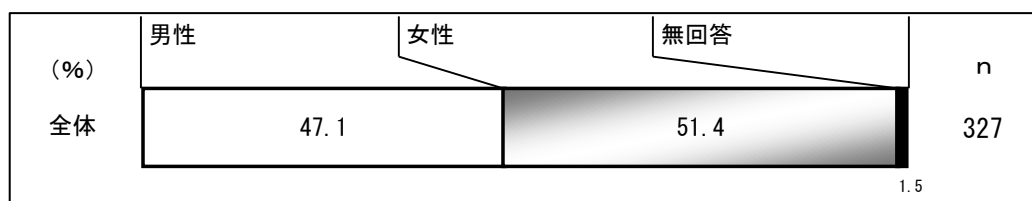
## Ⅱ. 一般住民アンケート調査の結果



# 1. 回答者の属性

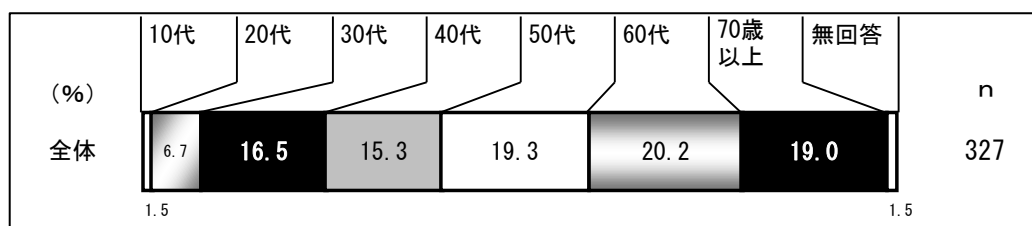
## (1) 性別

回答者の性別構成は、「女性」が51.4%、「男性」が47.1%となっています。



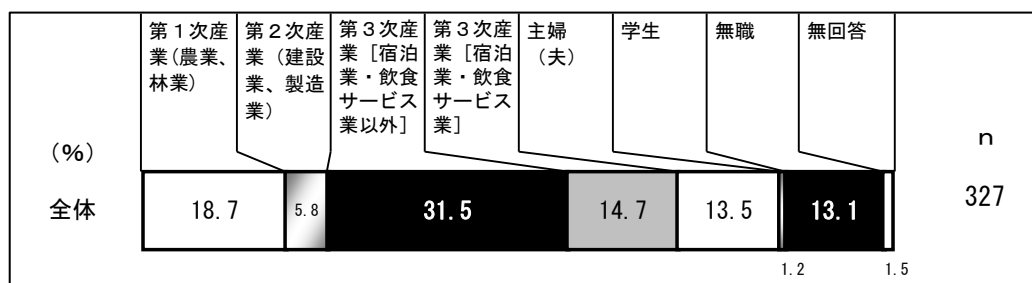
## (2) 年齢

回答者の年齢構成は、「60代」(20.2%)、「50代」(19.3%)、「70歳以上」(19.0%)、「30代」(16.5%)、「40代」(15.3%)、「20代」(6.7%)、「10代」(1.5%)となっています。



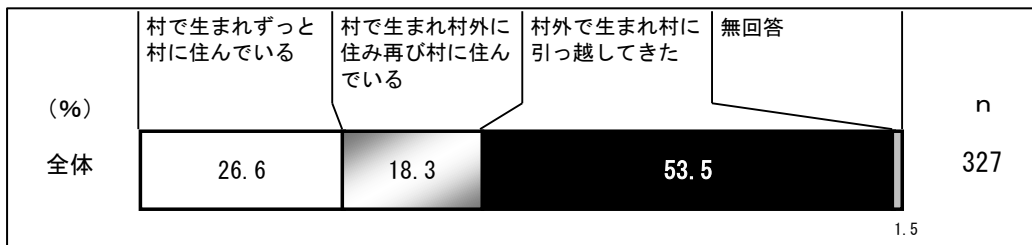
## (3) 職業

回答者の職業は、「第3次産業 [宿泊業・飲食サービス業以外]」(31.5%)、「第1次産業 (農業、林業)」(18.7%)、「第3次産業 [宿泊業・飲食サービス業]」(14.7%)、「主婦 (夫)」(13.5%)、「無職」(13.1%)、「第2次産業 (建設業、製造業)」(5.8%)、「学生」(1.2%)となっています。



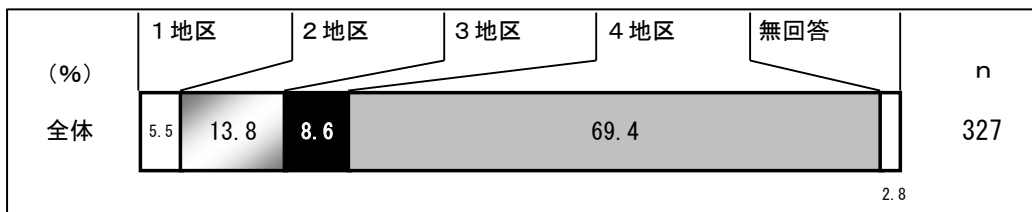
#### (4) 居住歴

回答者の居住歴は、「村外で生まれ村に引っ越してきた」(53.5%)、「村で生まれずっと村に住んでいる」(26.6%)、「村で生まれ村外に住み再び村に住んでいる」(18.3%)となっています。



#### (5) 居住地区

回答者の居住地区は、「4地区」(69.4%)、「2地区」(13.8%)、「3地区」(8.6%)、「1地区」(5.5%)となっています。



1地区	登、北登、泉川地区
2地区	知来別、北二線、北四線、五ノ原、八ノ原、向丘、黒田地区
3地区	三ノ原、三ノ原市街、南一線、南二線、南三線地区
4地区	その他(市街地)地区

## 2. 調査の結果

### 1. 住みよさ・愛着度・定住意向などについて

#### (1) 村の住みよさ

問2 あなたは、留寿都村の住みよさについて、どのようにお考えですか。

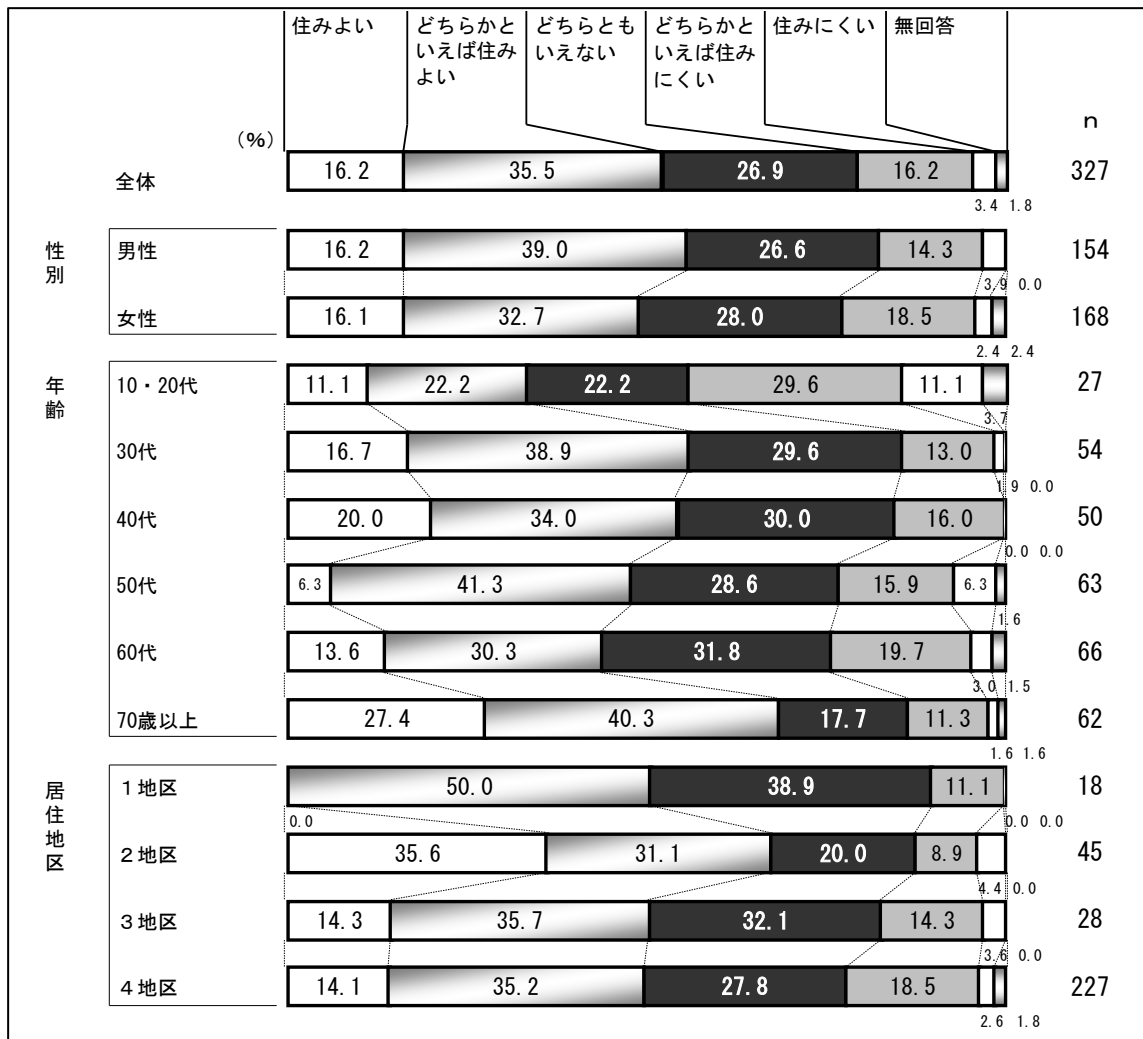


- “住みよい” が 51.7%、“住みにくい” が 19.6%。

住民が村の住みよさをどのように感じているかを把握するため、「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらかといえば住みよい」と答えた人が 35.5%で最も多く、これと「住みよい」(16.2%)をあわせた“住みよい”という人が 51.7%と5割強となっています。これに対し、“住みにくい”という人(「どちらかといえば住みにくい」(16.2%)と「住みにくい」(3.4%)の合計)は 19.6%と2割弱となっています。なお、「どちらともいえない」は 26.9%となっています。

図表Ⅱ-1 村の住みよさ（全体・性別・年齢・居住地区）



## (2) 村への愛着度

問3 あなたは、留寿都村に対して愛着をどの程度感じていますか。

● “愛着を感じている”が60.3%、“愛着を感じていない”が11.6%。

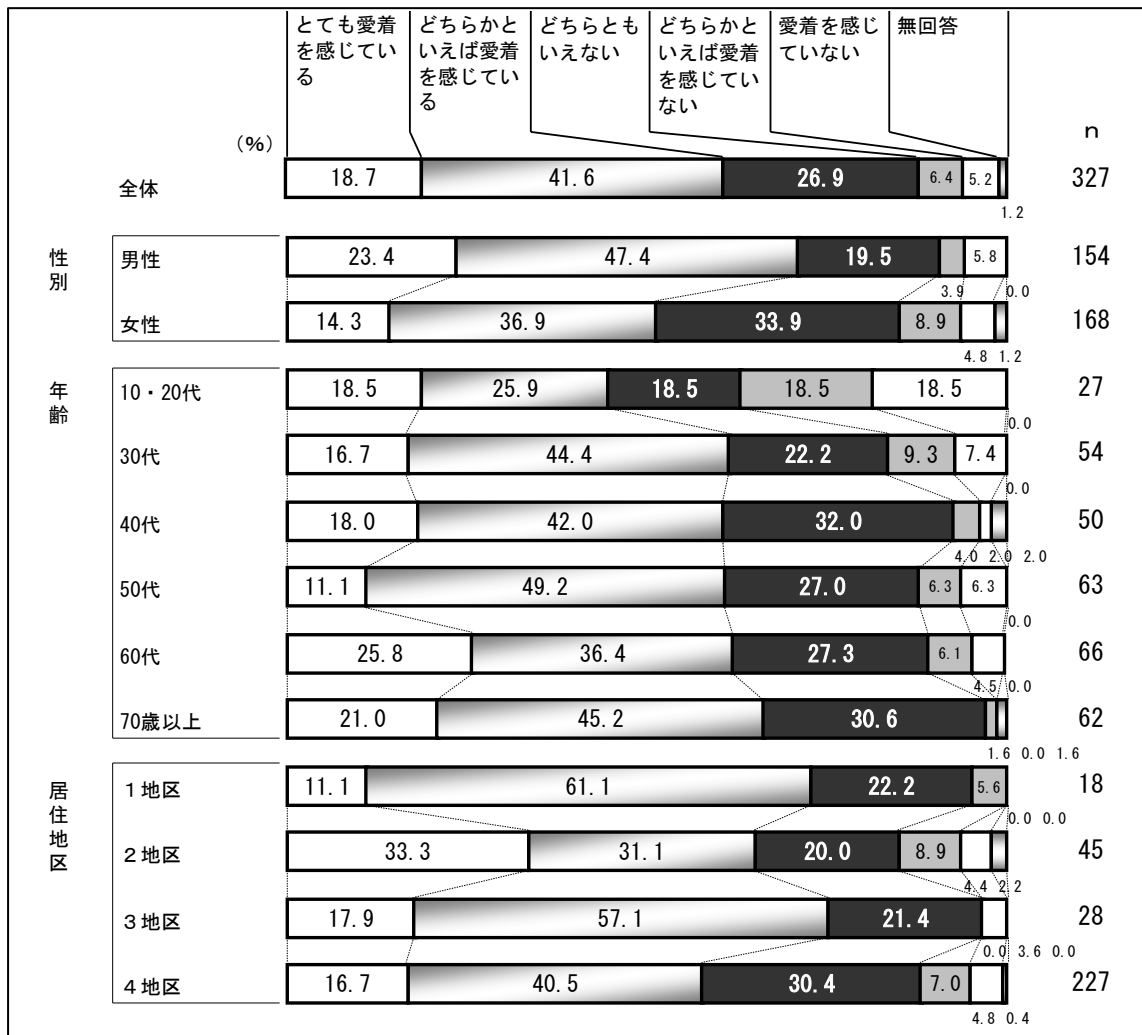
住民の村に対する愛着度を把握するため、「とても愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらかといえば愛着を感じている」と答えた人が41.6%で最も多く、これと「とても愛着を感じている」(18.7%)をあわせた“愛着を感じている”という人が60.3%と6割を占めています。これに対し、“愛着を感じていない”という人(「どちらかといえば愛着を感じていない」(6.4%)と「愛着を感じていない」(5.2%)、の合計)は11.6%と1割強となっており、大半の人が村に愛着を感じていることがうかがえます。なお、「どちらともいえない」は26.9%となっています。

### 【比較】

青少年アンケート	“愛着を感じている”が54.6%、“愛着を感じていない”が9.1%。
高校生アンケート	“愛着を感じている”が36.4%、“愛着を感じていない”が16.3%。
中学生アンケート	“好き”が71.8%、“好きではない”が2.2%。
小学生アンケート	“好き”が87.9%、“好きではない”が0.0%。

図表Ⅱ-2 村への愛着度（全体・性別・年齢・居住地区）





### (3) 今後の定住意向

問4 あなたは、これからも留寿都村に住みたいと思いますか。



● “住みたい”が52.6%、“住みたくない”が17.1%。

住民の今後の定住意向を探るため、「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらともいえない」と答えた人が29.4%で最も多くなっています。次いで「住みたい」と答えた人が28.7%、「どちらかといえば住みたい」と答えた人が23.9%で、これらをあわせた“住みたい”という人が52.6%と5割強にのぼっています。これに対し、“住みたくない”という人（「どちらかといえば住みたくない」（10.4%）と「住みたくない」（6.7%）の合計）は17.1%と2割に満たず、大半の人が村に住み続けたいという意向を持っていることがうかがえます。

#### 【比較】

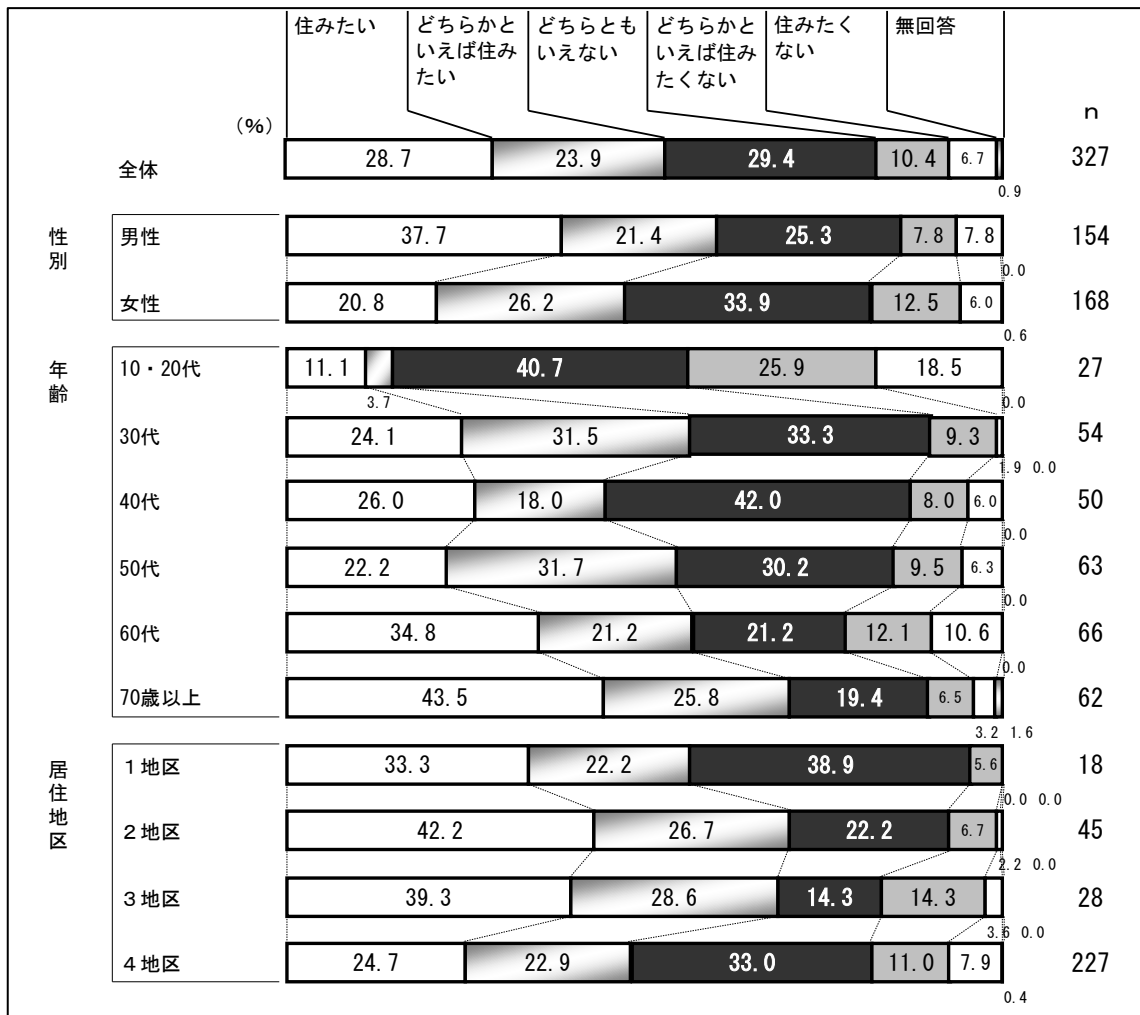
青少年アンケート “住みたい”が36.4%、“住みたくない”が27.3%。

高校生アンケート “住みたい”が12.7%、“住みたくない”が40.0%。

中学生アンケート “住みたくない”が43.4%、“住みたくない”が17.3%。

小学生アンケート “住みたくない”が78.8%、“住みたくない”が0.0%。

図表Ⅱ-3 今後の定住意向（全体・性別・年齢・居住地区）



#### (4) 村の魅力

問5 あなたは、留寿都村の魅力はどのようなところだと思いますか。【複数回答】

- 「自然環境・景観が優れている」と「おいしい農産物・特産品がある」が第1・2位を占める。続いて「生活環境施設が整っている」、「人情味や地域の連帯感がある」の順。

村の魅力についてたずねたところ、「自然環境・景観が優れている」(56.0%)と「おいしい農産物・特産品がある」(53.5%)が第1・2位を占め、続いて「生活環境施設が整っている」(19.9%)が第3位、「人情味や地域の連帯感がある」(18.0%)が第4位となっています。以下、「道路・交通の便がよい」(15.0%)、「保育・子育て環境が整っている」(13.5%)、「魅力ある観光資源がある」(11.6%)、「福祉環境が整っている」(7.6%)、「保健・医療環境が整っている」(7.3%)、「働く場所が多い」・「消防・防災・防犯体制が整っている」(同率3.7%)などの順となっています。

#### 【比較】

青少年アンケート 「おいしい農産物・特産品がある」、「自然や景色が優れている」、「魅力ある観光資源がある」、「保育・子育て環境が整っている」の順。

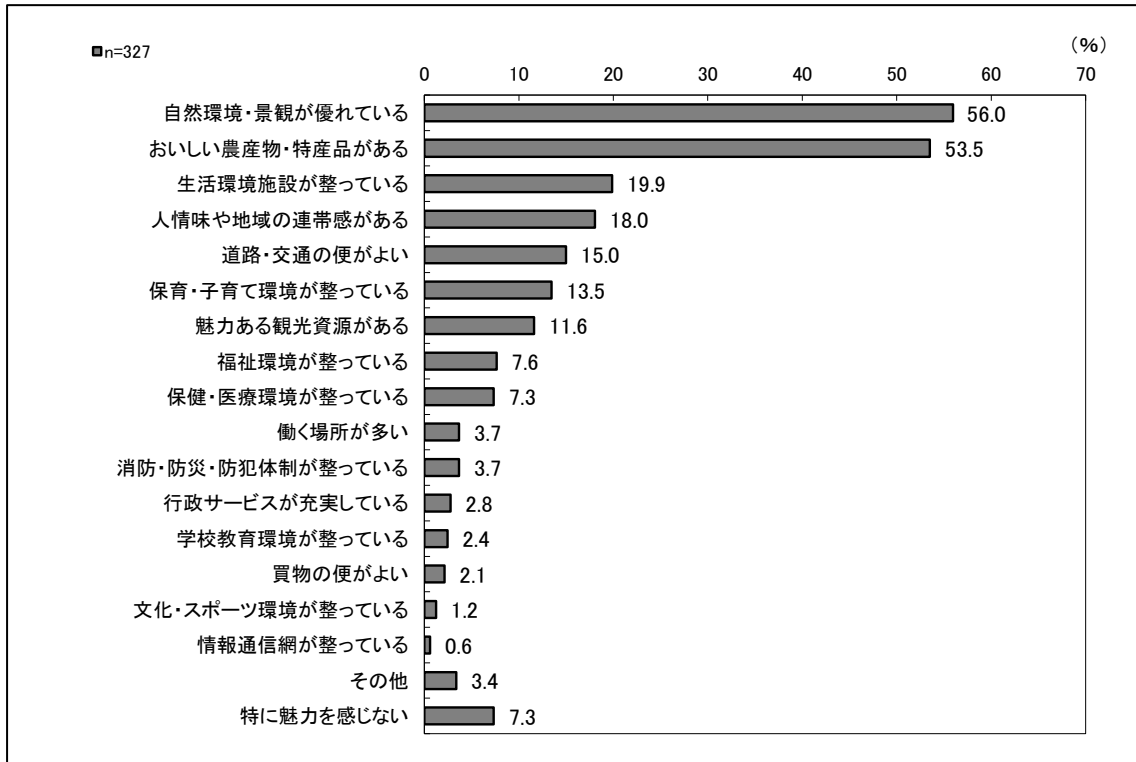
高校生アンケート 「自然や景色が優れている」、「おいしい農産物・特産品がある」、「魅力ある観光資源がある」、「福祉環境が整っている」の順。

中学生アンケート 「おいしい農産物がある」、「自然や景色がすばらしい」、「災害や犯罪が少ない」、「魅力ある観光スポットがある」の順。

小学生アンケート 「自然や景色がすばらしい」、「おいしい農産物がある」、「人がやさしい」、「災害や犯罪が少ない」の順。

職員アンケート 「自然環境・景観が優れている」、「おいしい農産物・特産品がある」、「魅力ある観光資源がある」の順。

図表Ⅱ-4 村の魅力（全体／複数回答）



図表Ⅱ-5 村の魅力（全体・性別・年齢・居住地区—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自然環境・景観が優れている 56.0	おいしい農産物・特産品がある 53.5	生活環境施設が整っている 19.9
性別	男性	自然環境・景観が優れている 61.7	おいしい農産物・特産品がある 46.8	人情味や地域の連帯感がある／生活環境施設が整っている 20.8
	女性	おいしい農産物・特産品がある 60.7	自然環境・景観が優れている 51.8	生活環境施設が整っている 18.5
年齢	10・20代	自然環境・景観が優れている 59.3	おいしい農産物・特産品がある 48.1	人情味や地域の連帯感がある／魅力ある観光資源がある／生活環境施設が整っている／保育・子育て環境が整っている 14.8
	30代	自然環境・景観が優れている 63.0	おいしい農産物・特産品がある 59.3	人情味や地域の連帯感がある／保育・子育て環境が整っている 22.2
	40代	自然環境・景観が優れている 64.0	おいしい農産物・特産品がある 62.0	人情味や地域の連帯感がある 18.0
	50代	自然環境・景観が優れている 61.9	おいしい農産物・特産品がある 55.6	人情味や地域の連帯感がある 17.5
	60代	おいしい農産物・特産品がある 56.1	自然環境・景観が優れている 50.0	道路・交通の便がよい 27.3
	70歳以上	生活環境施設が整っている／自然環境・景観が優れている 45.2	おいしい農産物・特産品がある 43.5	
居住地区	1地区	自然環境・景観が優れている 72.2	おいしい農産物・特産品がある 44.4	魅力ある観光資源がある 27.8
	2地区	自然環境・景観が優れている 57.8	おいしい農産物・特産品がある 51.1	人情味や地域の連帯感がある 28.9
	3地区	自然環境・景観が優れている 50.0	おいしい農産物・特産品がある 46.4	人情味や地域の連帯感がある 21.4
	4地区	おいしい農産物・特産品がある 56.8	自然環境・景観が優れている 55.9	生活環境施設が整っている 22.5

## (5) 村の不十分なところ

問6 あなたは、留寿都村の不十分なところはどのようなところだと思いますか。【複数回答】

- 「買い物の便が悪い」が第1位。次いで、「働く場所が少ない」「道路・交通の便が悪い」、「行政サービスが不十分」、「人情味や地域の連帯感が不十分」の順。

村の不十分なところについてたずねたところ、「買物の便が悪い」(59.0%)が他を引き離して最も多くなっています。次いで、「働く場所が少ない」(30.0%)が第2位、「道路・交通の便が悪い」(19.9%)が第3位、「行政サービスが不十分」(19.6%)が第4位、「人情味や地域の連帯感が不十分」(14.4%)が第5位となっています。

前問の「村の魅力」の結果とあわせて分析すると、買い物の便と道路・交通の便については、「村の魅力」と「村の不足しているところ」の両方で上位回答となっており、それぞれの人の感じ方の違いによるものと考えられますが、これらを除くと、保健・医療環境の不十分さ(次の設問の結果で保健面は満足度が高いことから、ここは「医療」のことでありと推定できる)と村の知名度の低さ、魅力ある観光資源の少なさが代表的な指摘事項といえます。

属性別でみると、多くの属性で全体と同様に「買い物の便が悪い」が第1位となっていますが、男性や30代では「村の知名度が低い」、60代・70歳以上や中央地区では「保健・医療環境が不十分」、工業地帯と農村地帯を中心とする南地区では「道路・交通の便が悪い」が第1位となっており、性別や年齢、居住地区によって違いをみせています。

### 【比較】

青少年アンケート 「働く場所が少ない」、「遊び場が少ない」、「買物の便が悪い」、「文化・スポーツ環境が不十分」の順。

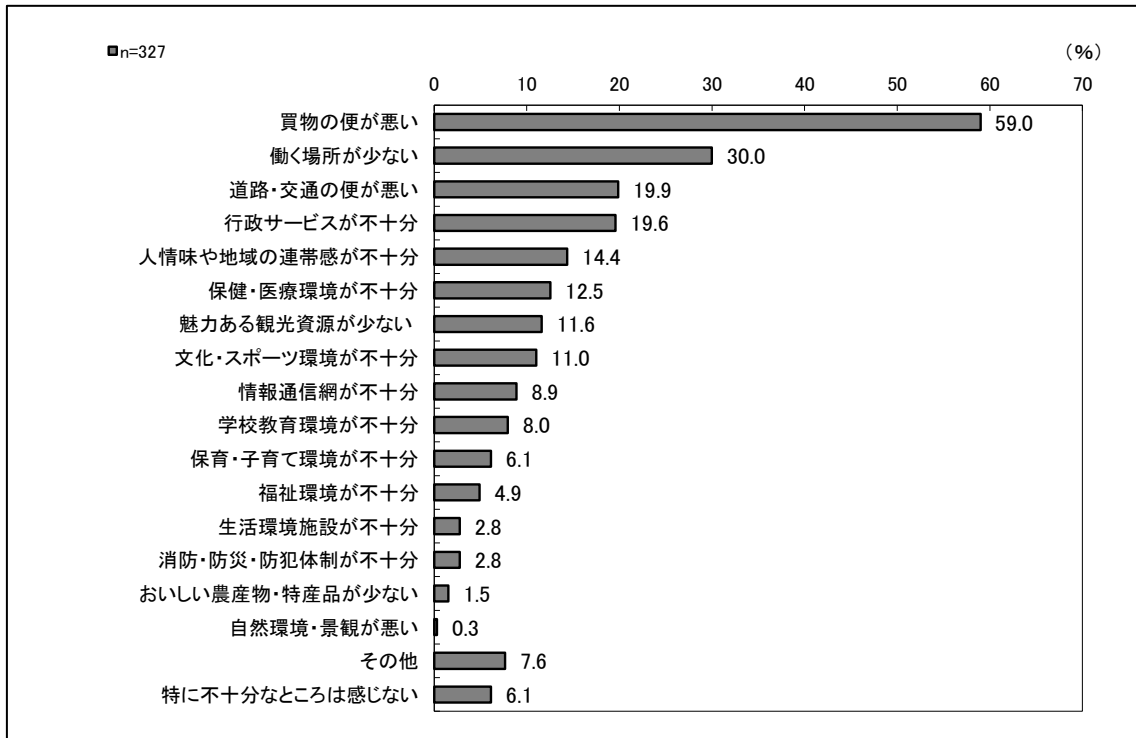
高校生アンケート 「買物の便が悪い」、「道路・交通の便が悪い」、「インターネット環境が不十分」、「遊び場が少ない」の順。

中学生アンケート 「遊び場が少ない」が第1位。次いで、「買物がしにくい」、「働く場所が少ない」の順。

小学生アンケート 「遊び場が少ない」が第1位。次いで、「買物がしにくい」、「働く場所が少ない」の順。

職員アンケート 「買物の便が悪い」、「働く場所が少ない」、「道路・交通の便が悪い」、「人情味や地域の連帯感が不十分」、「情報通信網が不十分」の順。

図表Ⅱ-6 村の不十分なところ（全体／複数回答）



図表Ⅱ-7 村の不十分なところ（全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		買物の便が悪い 59.0	働く場所が少ない 30.0	道路・交通の便が悪い 19.9
性別	男性	買物の便が悪い 57.1	働く場所が少ない 31.8	行政サービスが不十分 24.0
	女性	買物の便が悪い 60.7	働く場所が少ない 29.2	道路・交通の便が悪い 23.2
年齢	10・20代	買物の便が悪い 81.5	働く場所が少ない 40.7	魅力ある観光資源が少ない／道路・交通の便が悪い 22.2
	30代	買物の便が悪い 53.7	働く場所が少ない 29.6	行政サービスが不十分 18.5
	40代	買物の便が悪い 60.0	道路・交通の便が悪い 36.0	働く場所が少ない 26.0
	50代	買物の便が悪い 55.6	行政サービスが不十分 30.2	働く場所が少ない 22.2
	60代	買物の便が悪い 57.6	働く場所が少ない 40.9	行政サービスが不十分 19.7
	70歳以上	買物の便が悪い 59.7	働く場所が少ない 25.8	行政サービスが不十分／道路・交通の便が悪い 17.7
居住地区	1地区	買物の便が悪い 61.1	情報通信網が不十分 27.8	行政サービスが不十分／道路・交通の便が悪い／生活環境施設が不十分 22.2
	2地区	買物の便が悪い 46.7	働く場所が少ない 35.6	道路・交通の便が悪い／情報通信網が不十分／保健・医療環境が不十分 15.6
	3地区	買物の便が悪い 46.4	人情味や地域の連帯感が不十分 25.0	行政サービスが不十分 21.4
	4地区	買物の便が悪い 63.0	働く場所が少ない 33.5	道路・交通の便が悪い 22.5



## 2. 村の現状と今後の取り組みについて

### (1) 村の各環境に関する満足度

問7 留寿都村では、これまで第5次留寿都村総合計画（平成23年度～平成32年度）に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。

- 満足度が最も高い項目は「水道の整備状況」。次いで「下水道の整備状況」、「し尿処理の状況」の順。
- 満足度が最も低い項目は「商業振興の状況」。次いで「路線バスの状況」、「雇用対策の状況」の順。

村の環境に関する満足度について、現在どの程度満足しているかを把握するため、第5次留寿都村総合計画に基づき、協働・共生・行財政分野、産業分野、生活基盤分野、生活環境分野、保健・医療・福祉分野、教育・文化分野、の6分野49項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化〔後述参照〕で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、満足度が最も高い項目は「水道の整備状況」（4.97点）となっており、次いで第2位が「下水道の整備状況」（4.07点）、第3位が「し尿処理の状況」（3.28点）、第4位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」（3.25点）、第5位が「保健サービス提供体制」（3.05点）、以下、「緑化の推進状況」（2.56点）、「消防・救急体制」（2.19点）、「子育て支援体制」（2.17点）、「高齢者支援体制」（2.03点）、「医療体制」（1.99点）などの順となっています。

一方、満足度が最も低い項目は「商業振興の状況」（-3.14点）となっており、次いで第2位が「路線バスの状況」（-2.41点）、第3位が「雇用対策の状況」（-2.36点）、第4位が「移住促進対策の状況」（-2.22点）、第5位が「工業振興の状況」（-1.56点）、以下、「行財政改革の状況」（-1.35点）、「情報環境」（-1.17点）、「住宅施策の状況」（-1.08点）、「土地利用の状況」（-1.03点）、「観光振興の状況」（-0.85点）などの順となっています。

全体的にみると、村単独で行っているごみ処理をはじめとする生活環境分野全般と広報・広聴活動、消防・救急の満足度が高く、商業環境をはじめとする産業分野全般と市街地整備をはじめとする都市基盤分野の満足度が低くなっています。

また、49項目のうち、満足度がプラス評価の項目が32項目、マイナス評価の項目が17項目となっています。

※加重平均値による評価点（満足度）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left[ \begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right]}{\left[ \begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらか} \\ \text{といえば満足している」、「ど} \\ \text{ちらともいえない」、「どちら} \\ \text{かといえば不満である」、「不} \\ \text{満である」の回答者数} \end{array} \right]}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

【比較】

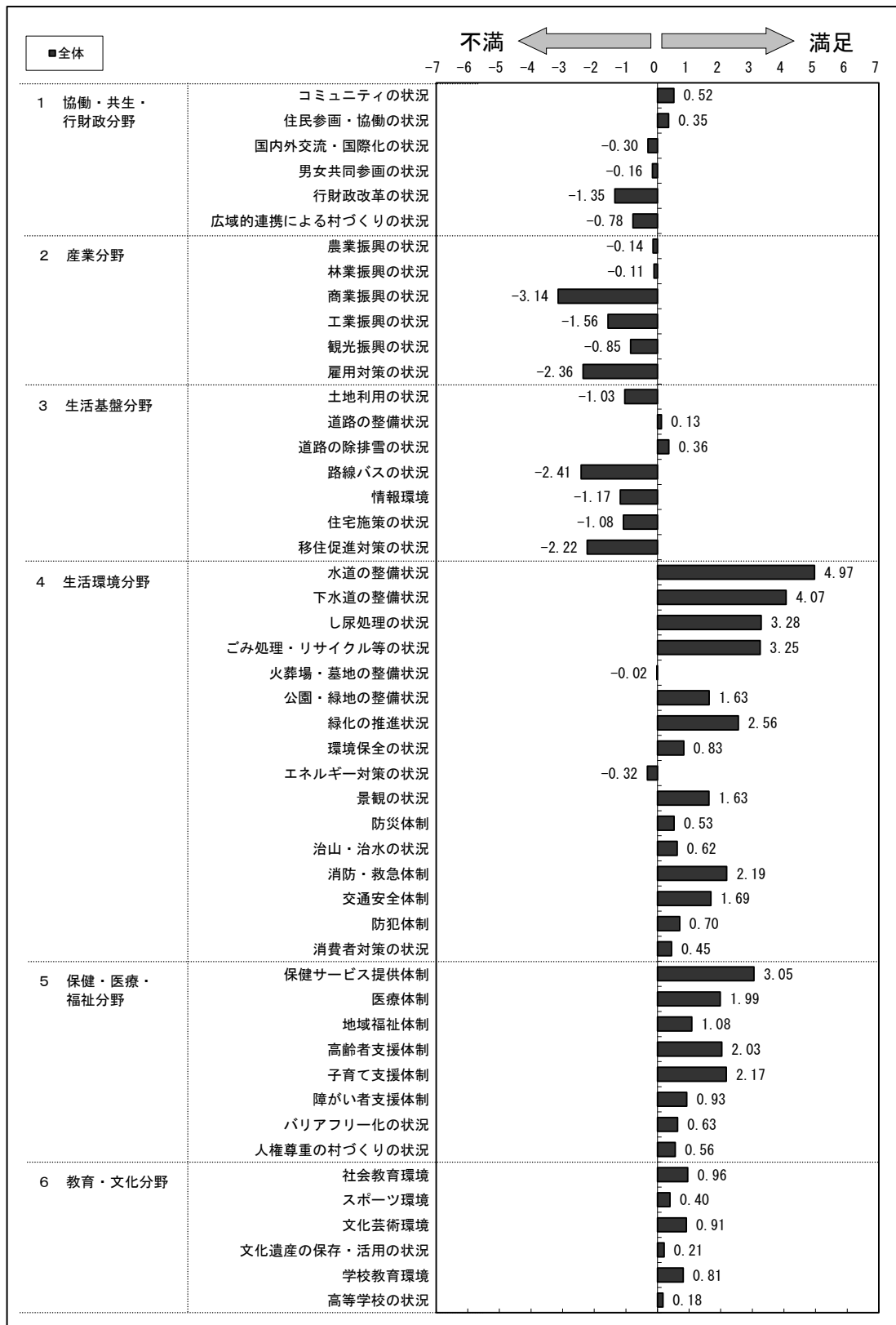
職員アンケート

● 満足度が高い項目：「水道の整備状況」、「下水道の整備状況」、  
「し尿処理の状況」の順。

● 満足度が低い項目：「住宅施策の状況」、「商業振興の状況」、「路  
線バスの状況」の順。

図表Ⅱ-8 村の現状に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



## (2) 村の各環境に関する重要度

問7 留寿都村では、これまで第5次留寿都村総合振興計画後期基本計画（2016年度～2020年度）に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。

- 重要度が最も高い項目は「医療体制」。次いで「道路の除排雪の状況」、「水道の整備状況」、「保健サービス提供体制」、「下水道の整備状況」の順。

村の各環境について、今後どの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ6分野49項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化【後述参照】で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、重要度が最も高い項目は「医療体制」（5.74点）となっており、次いで第2位が「道路の除排雪の状況」（5.58点）、第3位が「水道の整備状況」（5.40点）、第4位が「保健サービス提供体制」（4.69点）、第5位が「下水道の整備状況」（4.56点）、以下、「子育て支援体制」（4.48点）、「道路の整備状況」（4.40点）、「ごみ処理・リサイクル等の状況」・「高齢者支援体制」（同点4.33点）、「消防・救急体制」（4.26点）などの順となっています。

これら上位10項目をみると、「医療体制」以外では、7項目が安心・安全、都市基盤分野、2項目が生活環境分野の項目となっており、これまでの設問結果においてもニーズが高い医療をはじめ、快適で安全・安心、便利な生活基盤・生活環境づくりが重視されていることがうかがえます。

### 【比較】

職員アンケート ● 重要度が高い項目：「道路の除排雪の状況」、「子育て支援体制」、「医療体制」、「観光振興の状況」、「住宅施策の状況」の順。

※加重平均値による評価点（重要度）の算出方法

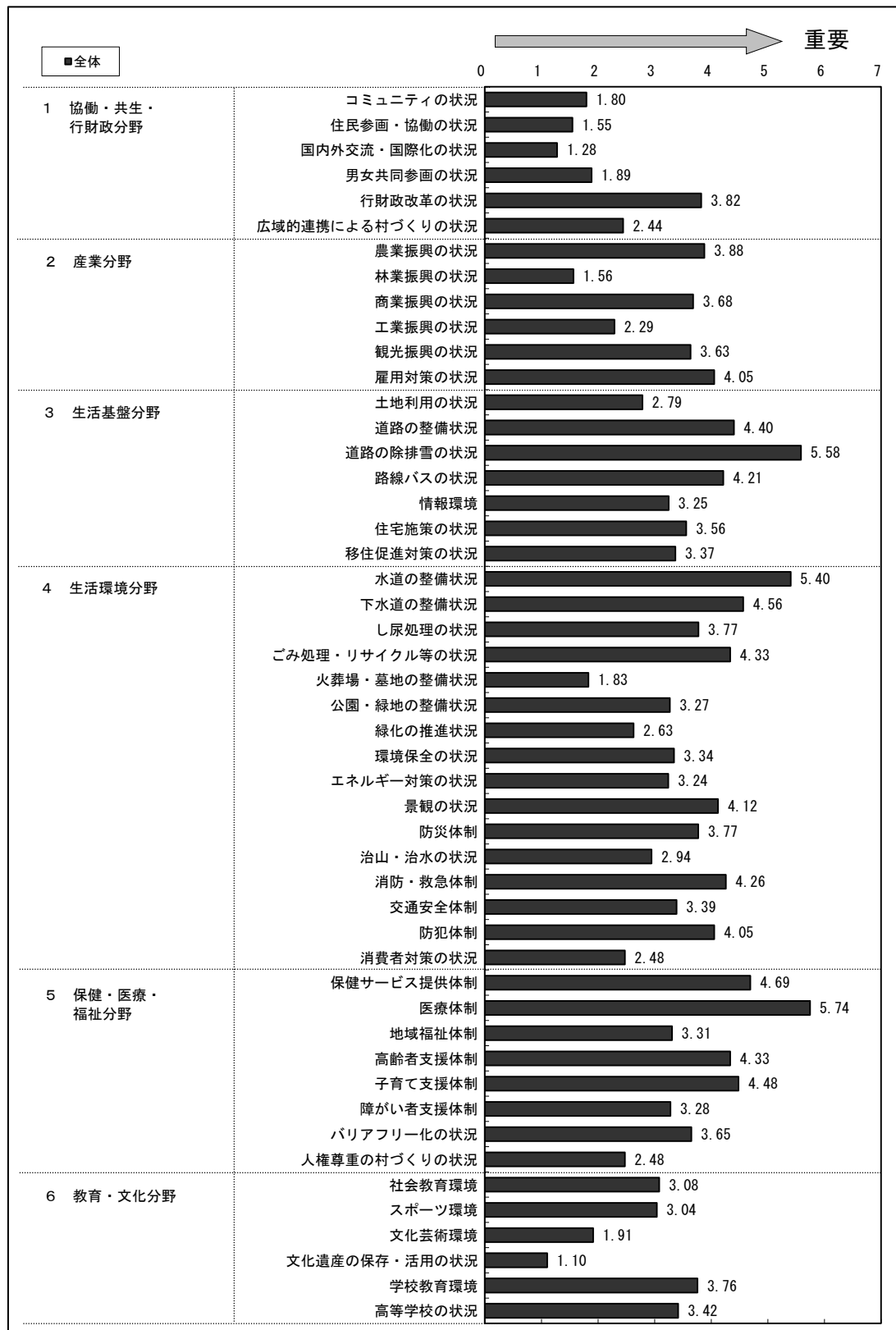
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視し} \\ \text{ている」、「どちらともいえない」、} \\ \text{「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(重要度)は 10 点～-10 点の間に分布し、中間点の 0 点を境に、10 点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10 点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表Ⅱ-9 村の環境に関する重要度（全体）

（単位：評価点）



### (3) 満足度と重要度の相関（優先度）

- 満足度と重要度の相関からみた優先度が最も高い項目は「路線バスの状況」。次いで「雇用対策の状況」、「商業振興の状況」、「道路の除排雪の状況」の順。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図による数量化【後述参照】で優先度（評価点：最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点）を算出しました。

この結果をみると、優先度は、「路線バスの状況」（14.85 点）が第 1 位で、次いで「雇用対策の状況」（13.40 点）、「商業振興の状況」（13.05 点）、「道路の除排雪の状況」（10.97 点）、「行財政改革の状況」（8.83 点）、「移住促進対策の状況」（8.33 点）、「道路の整備状況」（6.57 点）、「医療体制」（6.17 点）、「住宅施策の状況」（6.12 点）、「農業振興の状況」（6.01 点）などの順となっています。

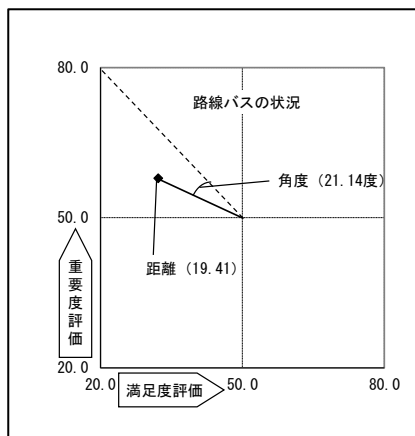
#### 【比較】

- 職員アンケート ● 優先度が高い項目：「住宅施策の状況」、「商業振興の状況」、「路線バスの状況」、「観光振興の状況」の順。

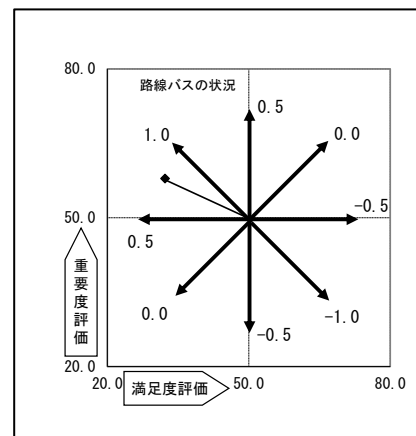
※散布図による評価点（優先度）の算出方法

- ① 散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。  
例：「路線バスの状況」→満足度偏差値 32.25…、重要度偏差値 57.85…
- ② ①で算出した偏差値から、平均（中心）からの距離を算出する。  
例：「路線バスの状況」→ $19.41 \dots \equiv \sqrt{(32.25-50)^2 + (57.85-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。  
例：「路線バスの状況」→21.14 度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。  
例：「路線バスの状況」→ $0.7651 = (90-21.14) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。  
例：「路線バスの状況」→ $14.85 = 19.41 \dots \times 0.7651 \dots$

距離・角度

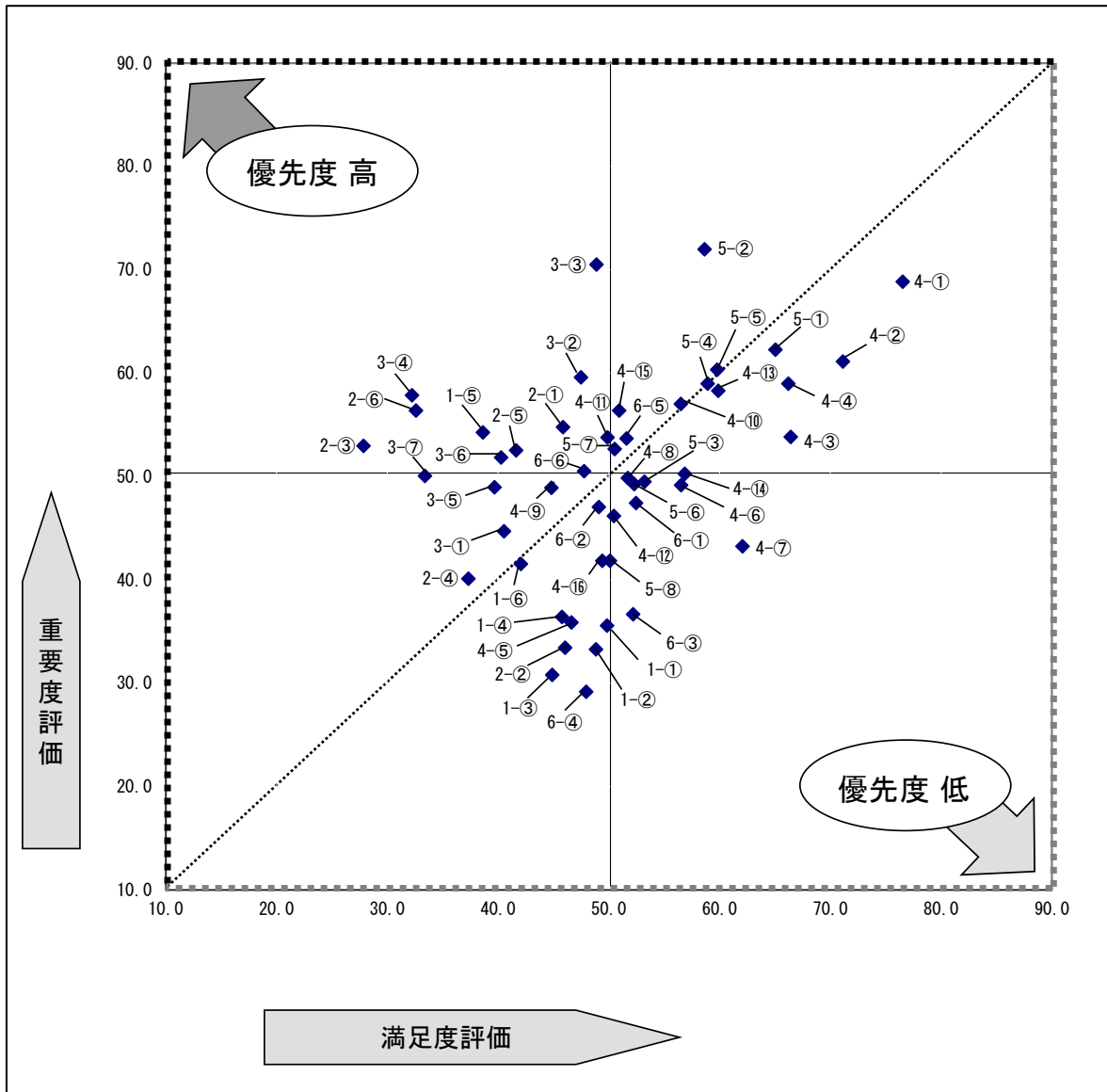


指数の設定





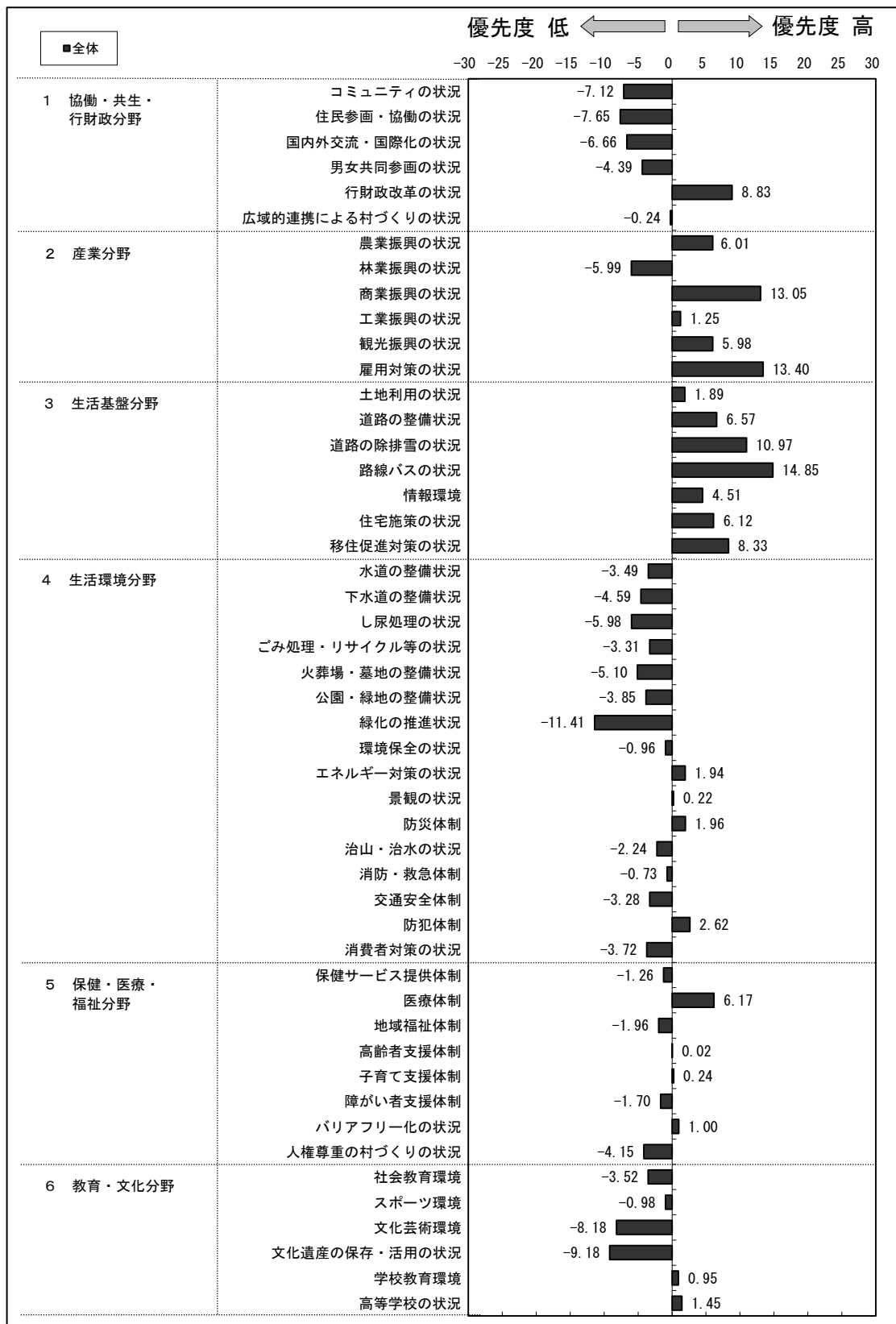
図表Ⅱ-10 満足度と重要度の相関（全体／優先度）



優先度高い		優先度低い	
3-4 路線バスの状況	4-9 エネルギー対策の状況	4-7 緑化の推進状況	6-1 社会教育環境
2-6 雇用対策の状況	3-1 土地利用の状況	6-4 文化遺産の保存・活用の状況	4-1 水道の整備状況
2-3 商業振興の状況	6-6 高等学校の状況	6-3 文化芸術環境	4-4 ごみ処理・リサイクル等の状況
3-3 道路の除排雪の状況	2-4 工業振興の状況	1-2 住民参画・協働の状況	4-14 交通安全体制
1-5 行財政改革の状況	5-7 バリアフリー化の状況	1-1 コミュニティの状況	4-12 治山・治水の状況
3-7 移住促進対策の状況	6-5 学校教育環境	1-3 国内外交流・国際化の状況	5-3 地域福祉体制
3-2 道路の整備状況	5-5 子育て支援体制	2-2 林業振興の状況	5-6 障がい者支援体制
5-2 医療体制	4-10 景観の状況	4-3 し尿処理の状況	5-1 保健サービス提供体制
3-6 住宅施策の状況	5-4 高齢者支援体制	4-5 火葬場・墓地の整備状況	6-2 スポーツ環境
2-1 農業振興の状況		4-2 下水道の整備状況	4-8 環境保全の状況
2-5 観光振興の状況		1-4 男女共同参画の状況	4-13 消防・救急体制
3-5 情報環境		5-8 人権尊重の村づくりの状況	1-6 広域的連携による村づくりの状況
4-15 防犯体制		4-6 公園・緑地の整備状況	
4-11 防災体制		4-16 消費者対策の状況	

図表Ⅱ-11 満足度と重要度の相関（全体／優先度）

（単位：評価点）



#### (4) 今後の村づくりの特色

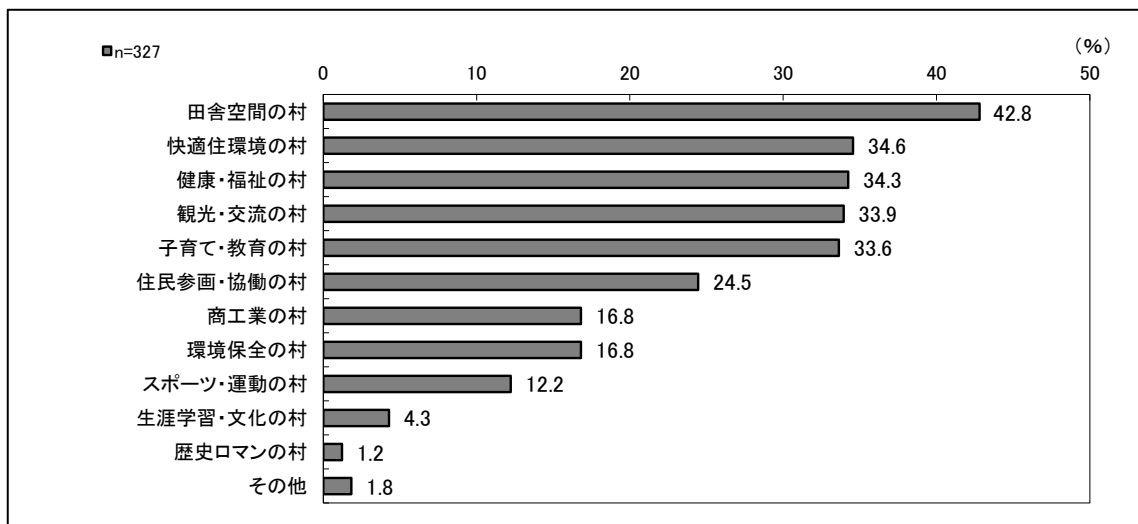
問8 あなたは、今後、留寿都村をどのような特色のある村にすべきだと思いますか。  
【複数回答】

- 「田舎空間の村」が第1位。次いで「快適住環境の村」、「健康・福祉の村」の順。

今後どのような特色のある村にすべきかについては、「田舎空間の村」(42.8%)が第1位となっており、次いで、「快適住環境の村」(34.6%)が第2位、第3位が「健康・福祉の村」(34.3%)、第4位が「観光・交流の村」(33.9%)、第5位が「子育て・教育の村」(33.6%)となっています。以下、「住民参画・協働の村」(24.5%)、「商工業の村」・「環境保全の村」(同率16.8%)、「スポーツ・運動の村」(12.2%)、「生涯学習・文化の村」(4.3%)、「歴史ロマンの村」(1.2%)などの順となっています。

これらについても以下を引き離して代表的な回答となっており、“快適な住環境の整備”や“子育て・教育環境の充実”を望む声も比較的強くなっています。

図表Ⅱ-12 今後の村づくりの特色 (全体/複数回答)



図表Ⅱ-13 今後の村づくりの特色（全体・性別・年齢・居住地区—上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		田舎空間の村 42.8	快適住環境の村 34.6	健康・福祉の村 34.3
性別	男性	田舎空間の村 46.8	子育て・教育の村 35.7	観光・交流の村 34.4
	女性	快適住環境の村 41.1	健康・福祉の村 39.9	田舎空間の村 39.3
年齢	10・20代	快適住環境の村 51.9	観光・交流の村 44.4	田舎空間の村 40.7
	30代	子育て・教育の村 57.4	観光・交流の村 44.4	田舎空間の村 42.6
	40代	子育て・教育の村 48.0	田舎空間の村 42.0	健康・福祉の村 38.0
	50代	田舎空間の村 46.0	観光・交流の村 38.1	快適住環境の村 36.5
	60代	田舎空間の村 48.5	快適住環境の村／健康・福祉の村 33.3	
	70歳以上	健康・福祉の村 45.2	田舎空間の村 37.1	住民参画・協働の村 33.9
居住地区	1地区	観光・交流の村 61.1	子育て・教育の村 44.4	健康・福祉の村 33.3
	2地区	田舎空間の村 62.2	快適住環境の村／健康・福祉の村 33.3	
	3地区	田舎空間の村 67.9	住民参画・協働の村／観光・交流の村 35.7	
	4地区	田舎空間の村 38.3	快適住環境の村 37.9	子育て・教育の村 37.0

### 3. 日頃の行動などについて

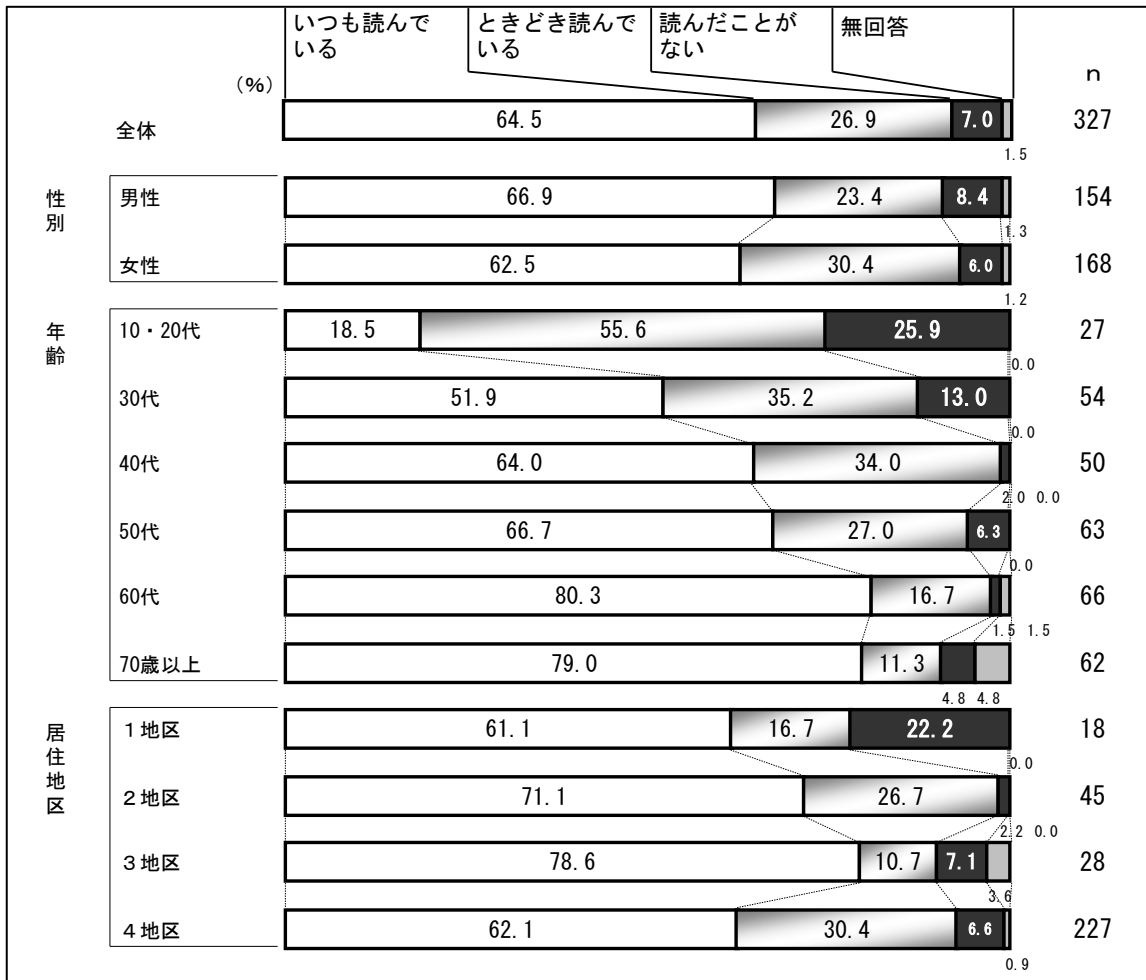
#### (1) 広報るすつ

問9① あなたは、「広報るすつ」を読んでいますか。

● 広報るすつを“読んでいる”人は91.4%。

広報るすつについては、「いつも読んでいる」と答えた人が64.5%、「ときどき読んでいる」と答えた人が26.9%で、これらをあわせた“読んでいる”という人が91.4%となっています。一方、「読んだことがない」と答えた人は7.0%となっています。

図表Ⅱ-14 広報るすつ（全体・性別・年齢・居住地区）



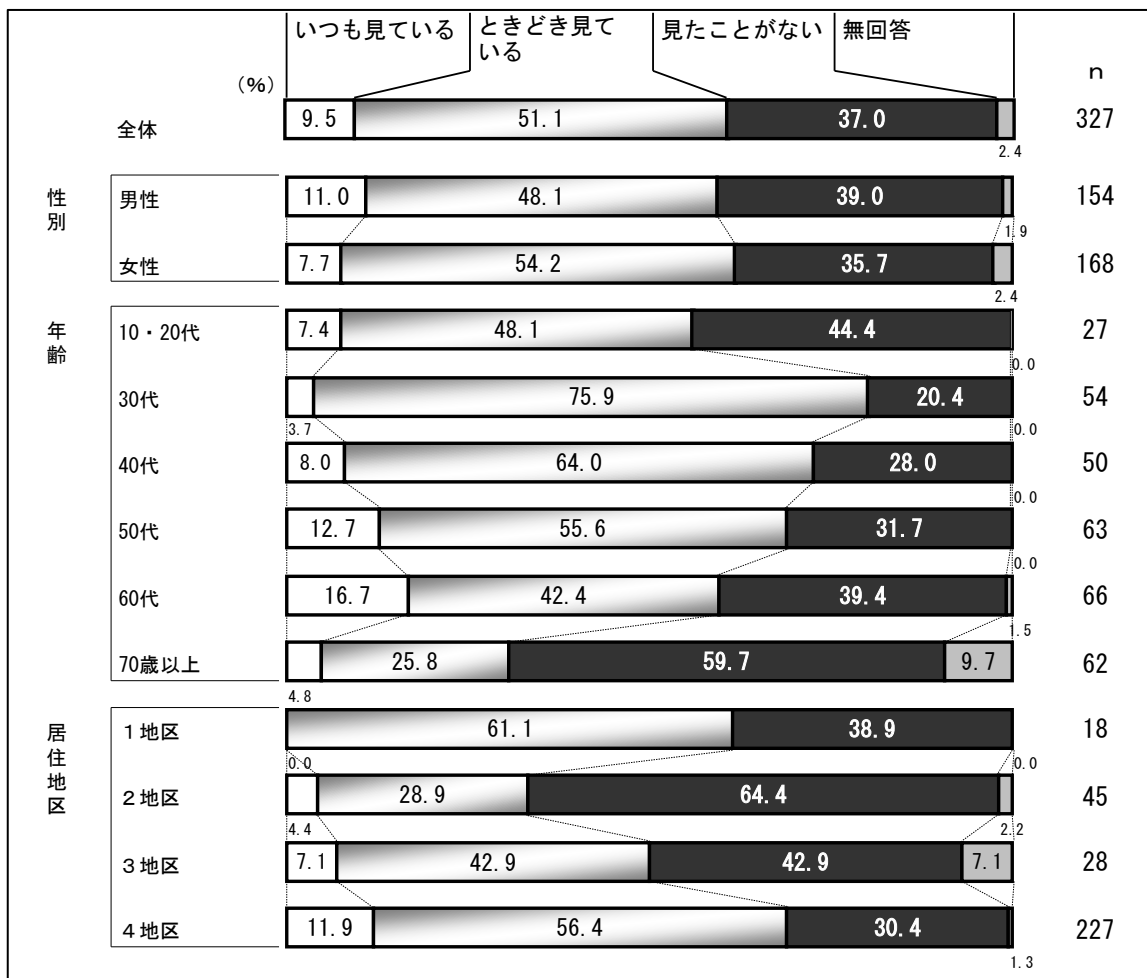
## (2) 村のホームページ

問9② あなたは、村のホームページを見たことがありますか。

● 村のホームページを“見る”人は60.6%。

ホームページについては、「ときどき見ている」が51.1%、「いつも見ている」が9.5%で、これらをあわせた“見る”という人が60.6%となっています。一方、「見たことがない」と答えた人は37.0%となっています。

図表Ⅱ-15 村のホームページ（全体・性別・年齢・居住地区）



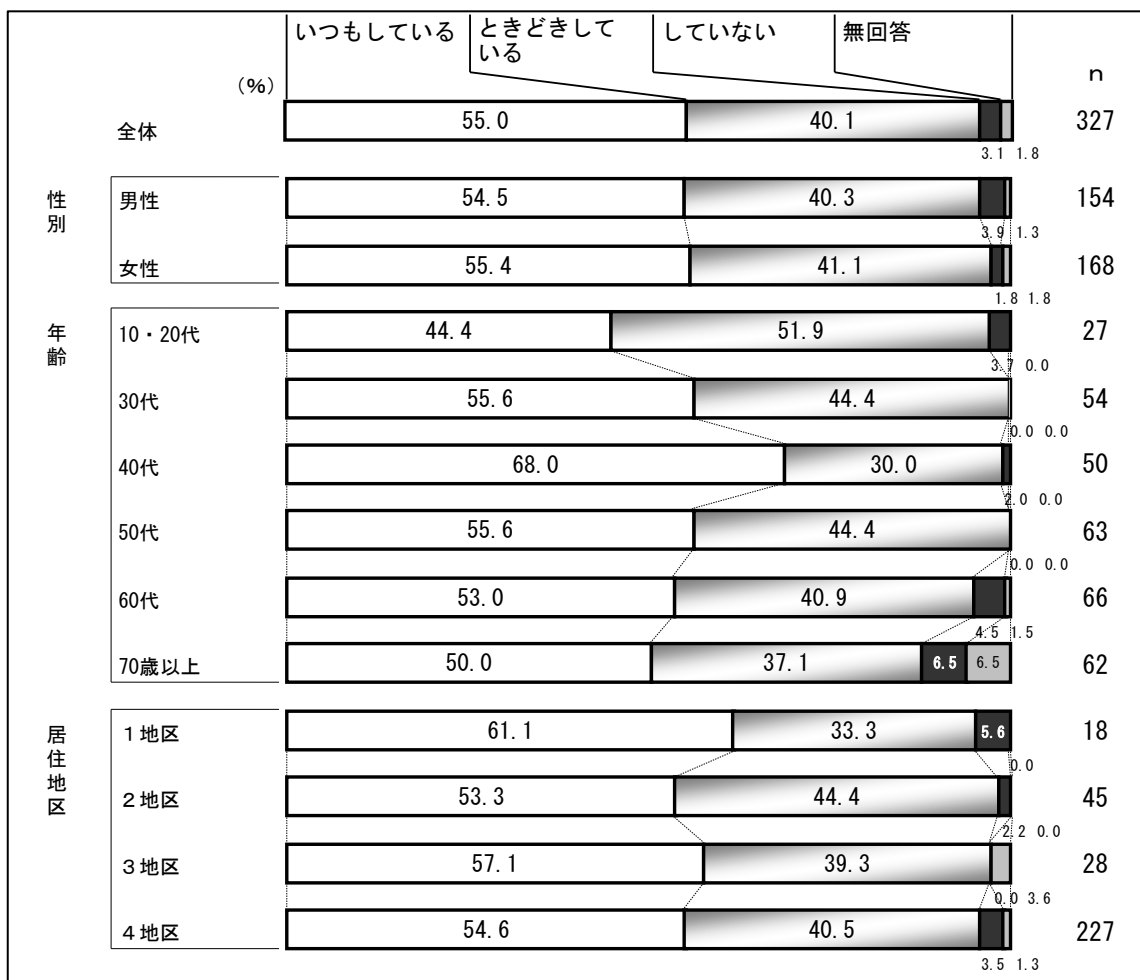
### (3) 村内の商店での買物

問9③ あなたは、普段、村内の商店（コンビニを含む）で買物をしていますか。

● 村内の商店での買物を「している」人は95.1%。

村内の商店での買物については、「いつもしている」と答えた人が55.0%、「ときどきしている」と答えた人が40.1%となっており、これらを合わせた“している”人は95.1%となっています。一方、「していない」と答えた人は3.1%となっています。

図表Ⅱ-16 村内の商店での買物（全体・性別・年齢・居住地区）



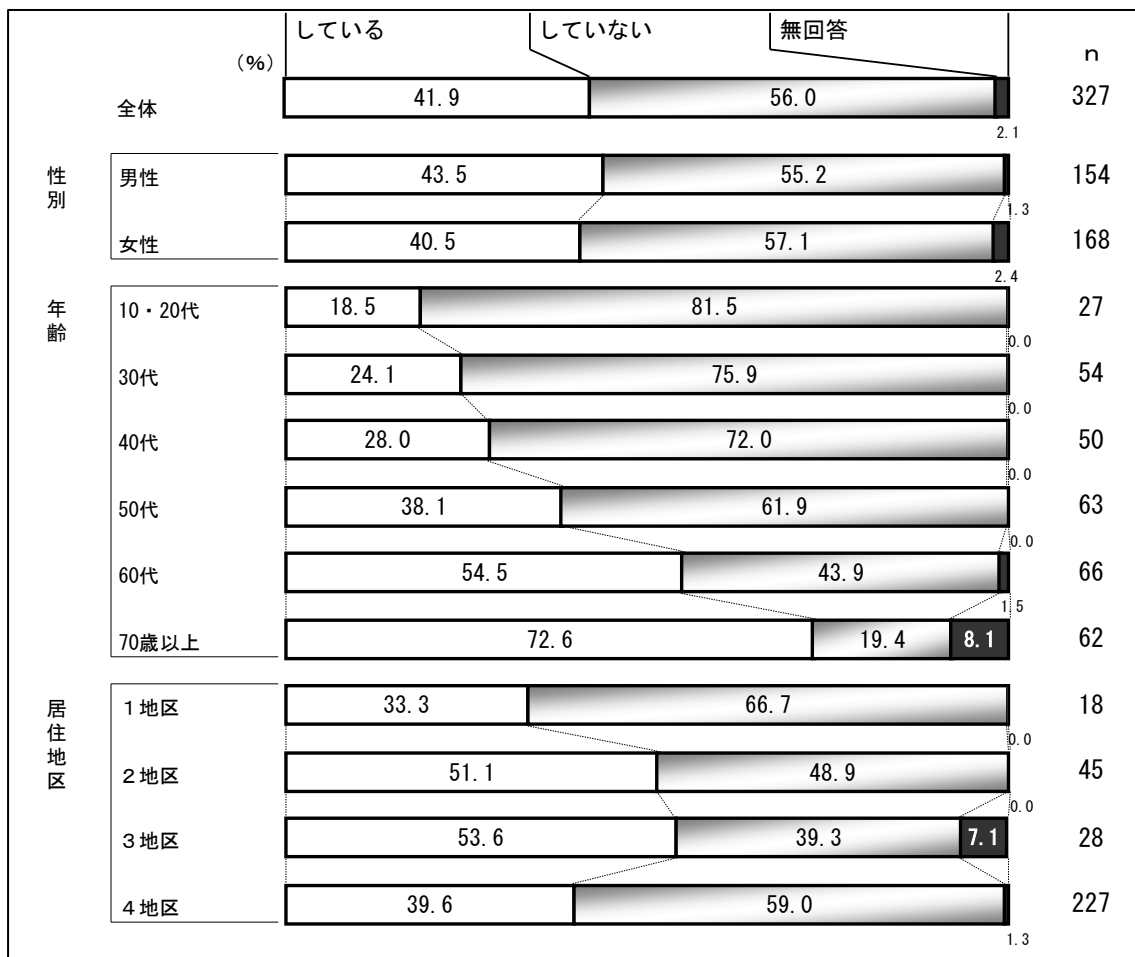
#### (4) 緑化活動

問9④ あなたは、緑化活動（植樹や花づくり）をしていますか。

● 緑化活動を「している」人は56.0%。

緑化活動については、「していない」と答えた人が56.0%、「している」と答えた人が41.9%となっています。

図表Ⅱ-17 緑化活動（全体・性別・年齢・居住地区）





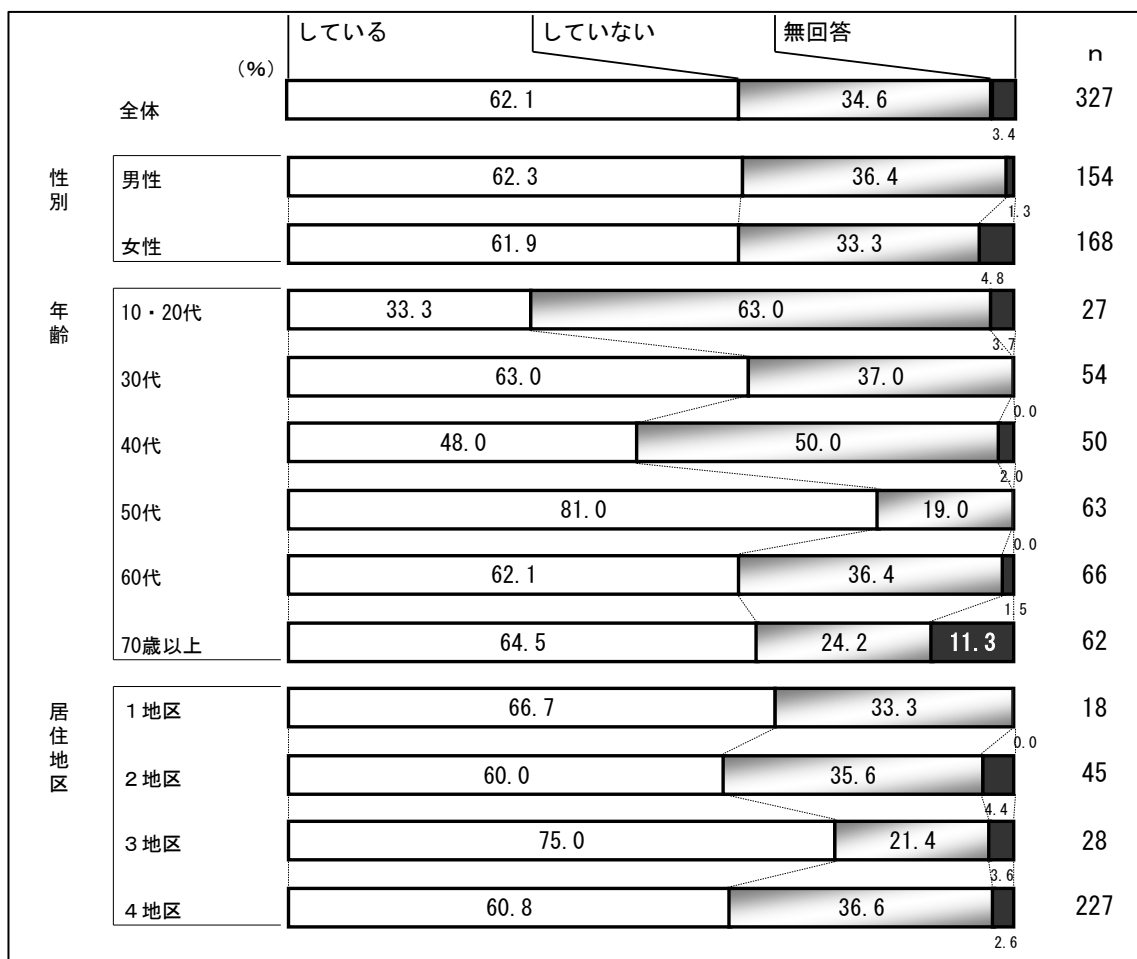
### (5) 環境に配慮した生活

問9⑤ あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。

● 環境に配慮した生活を「している」人は62.1%。

環境に配慮した生活については、「している」と答えた人が62.1%、「していない」と答えた人が34.6%となっています。

図表Ⅱ-18 環境に配慮した生活（全体・性別・年齢・居住地区）



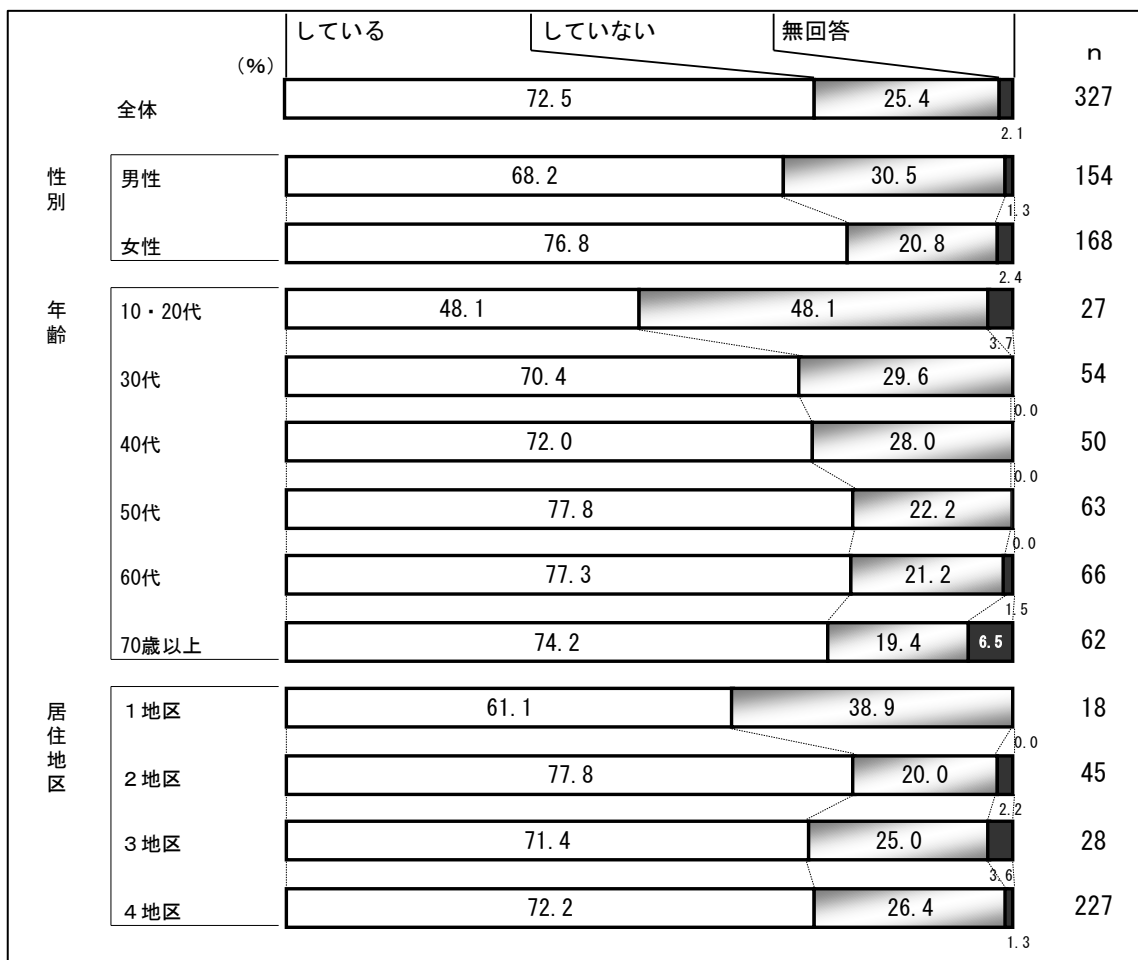
## (6) 3R運動

問9⑥ あなたは、ごみの減量化のため、3R運動【リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生使用）】をしていますか。

- 3R運動を「している」人は72.5%。

3R運動については、「している」と答えた人が72.5%、「していない」と答えた人が25.4%となっています。

図表Ⅱ-19 3R運動（全体・性別・年齢・居住地区）



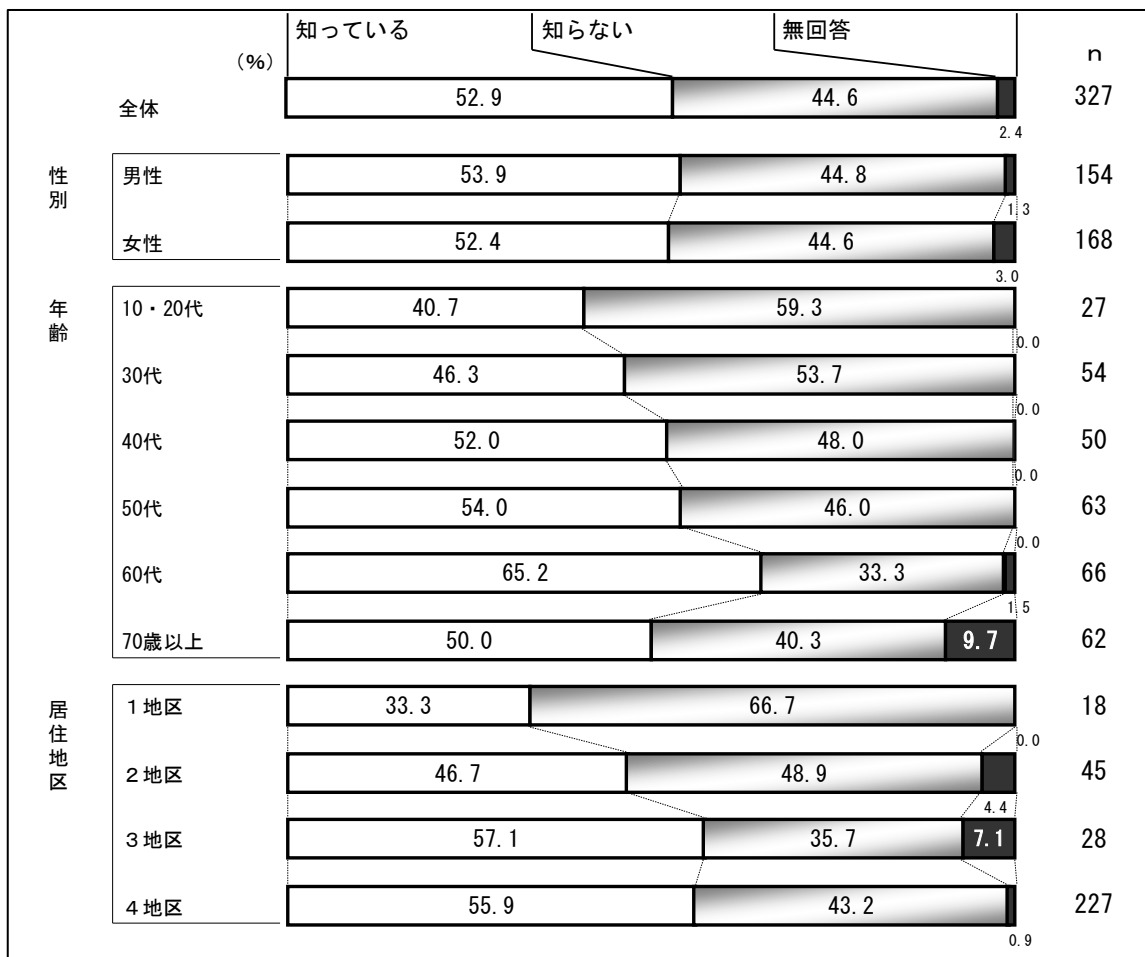
## (7) 災害時の避難路・避難場所

問9⑦ あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

● 災害時の避難路・避難場所を「知っている」人は52.9%。

災害時の避難路・避難場所については、「知っている」と答えた人が52.9%、「知らない」と答えた人が44.6%となっています。

図表Ⅱ-20 災害時の避難路・避難場所（全体・性別・年齢・居住地区）



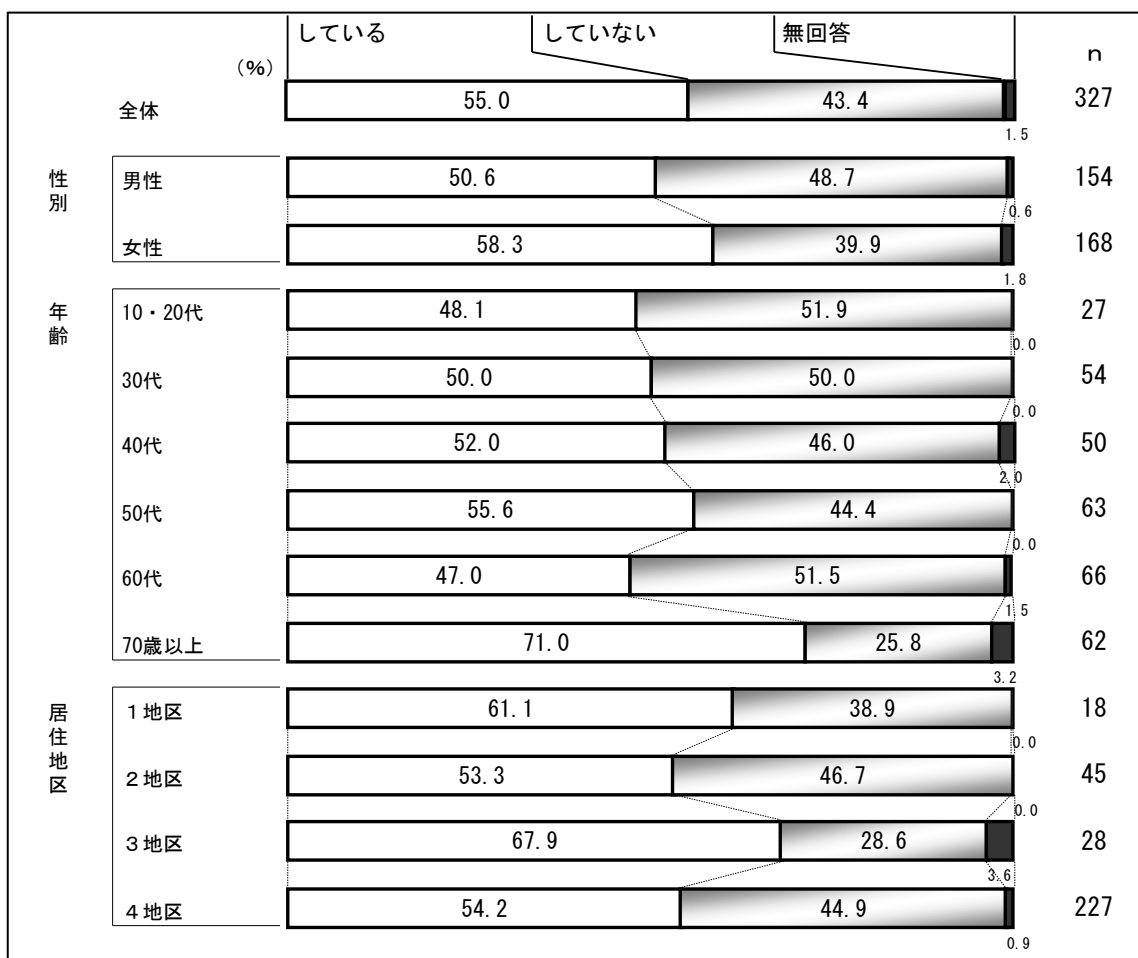
## (8) 健康増進のための取り組み

問9⑧ あなたは、日頃、健康増進のための取り組み（食生活の改善や運動など）をしていますか。

- 健康増進のための取り組みを「している」人は55.0%。

健康増進のための取り組みについては、「している」と答えた人が55.0%、「していない」と答えた人が43.4%となっています。

図表Ⅱ-21 健康増進のための取り組み（全体・性別・年齢・居住地区）



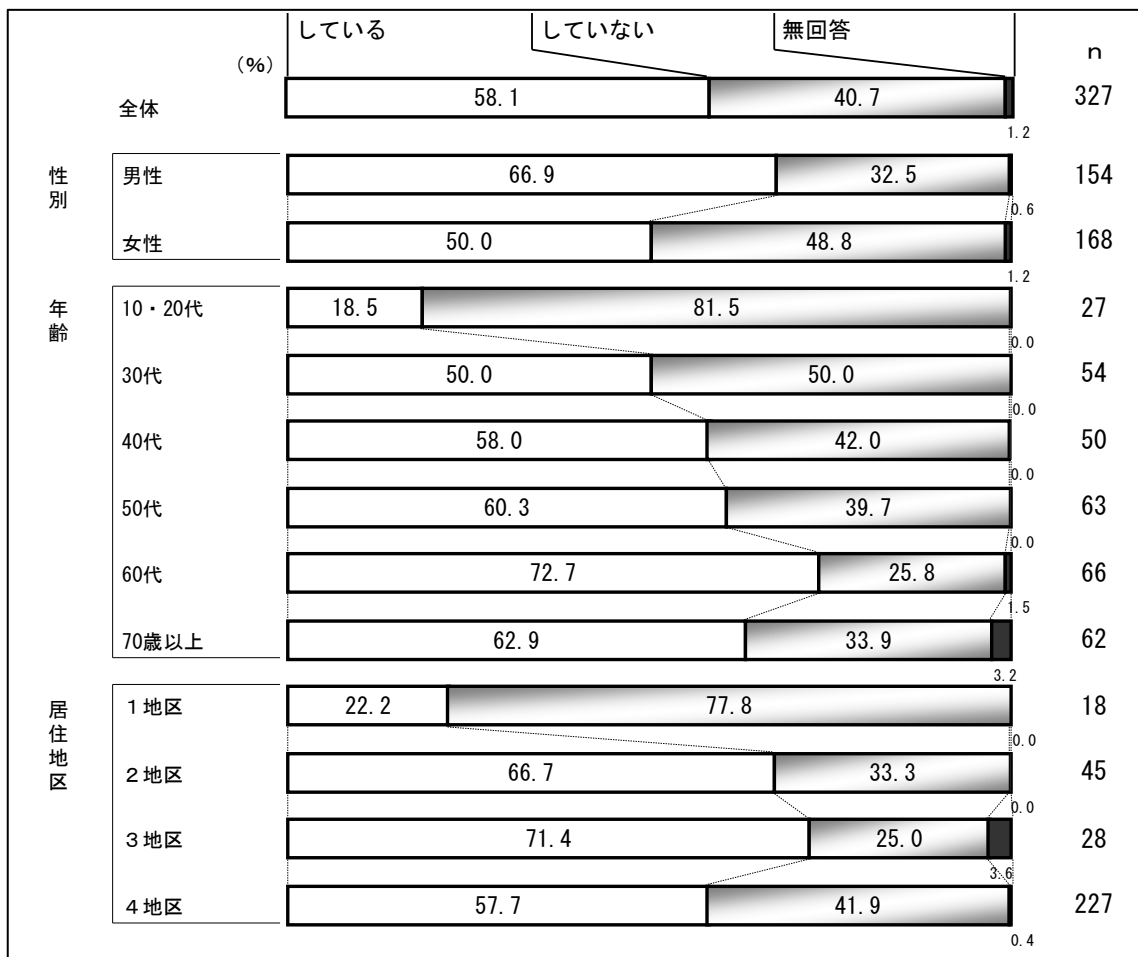
(9) 地域のコミュニティ活動への参加

問9⑨ あなたは、町内会活動など、地域のコミュニティ活動に参加していますか。

● 地域のコミュニティ活動への参加「している」人は58.1%。

地域のコミュニティ活動への参加については、「している」と答えた人が58.1%、「していない」と答えた人が40.7%となっています。

図表Ⅱ-22 地域のコミュニティ活動への参加（全体・性別・年齢・居住地区）



(10) 地域福祉活動への参加

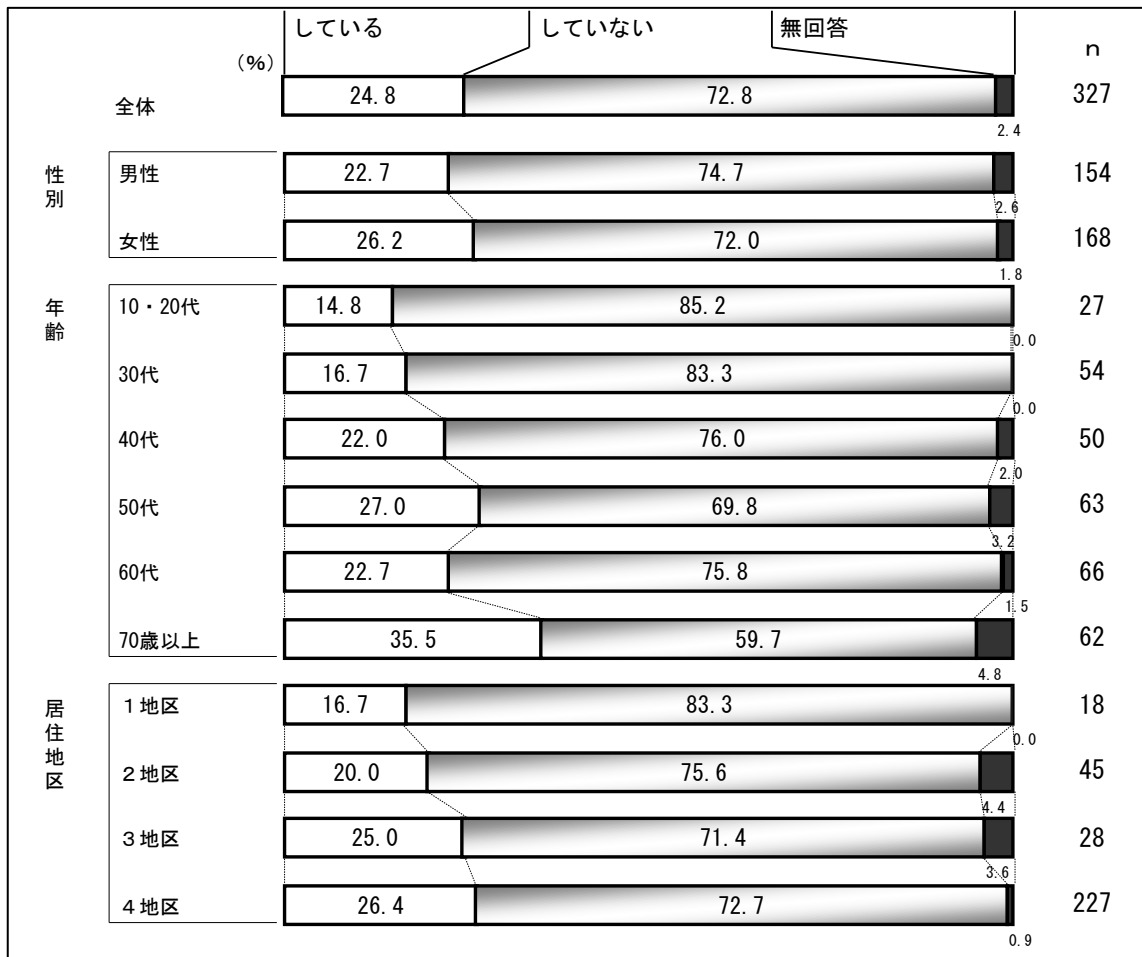
問 9 ⑩ あなたは、身近な地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動に参加していますか。



● 地域福祉活動への参加を「している」人は 24.8%。

地域福祉活動への参加については、「していない」と答えた人が 72.8%、「している」と答えた人が 24.8%となっています。

図表 II-23 地域福祉活動への参加（全体・性別・年齢・居住地区）



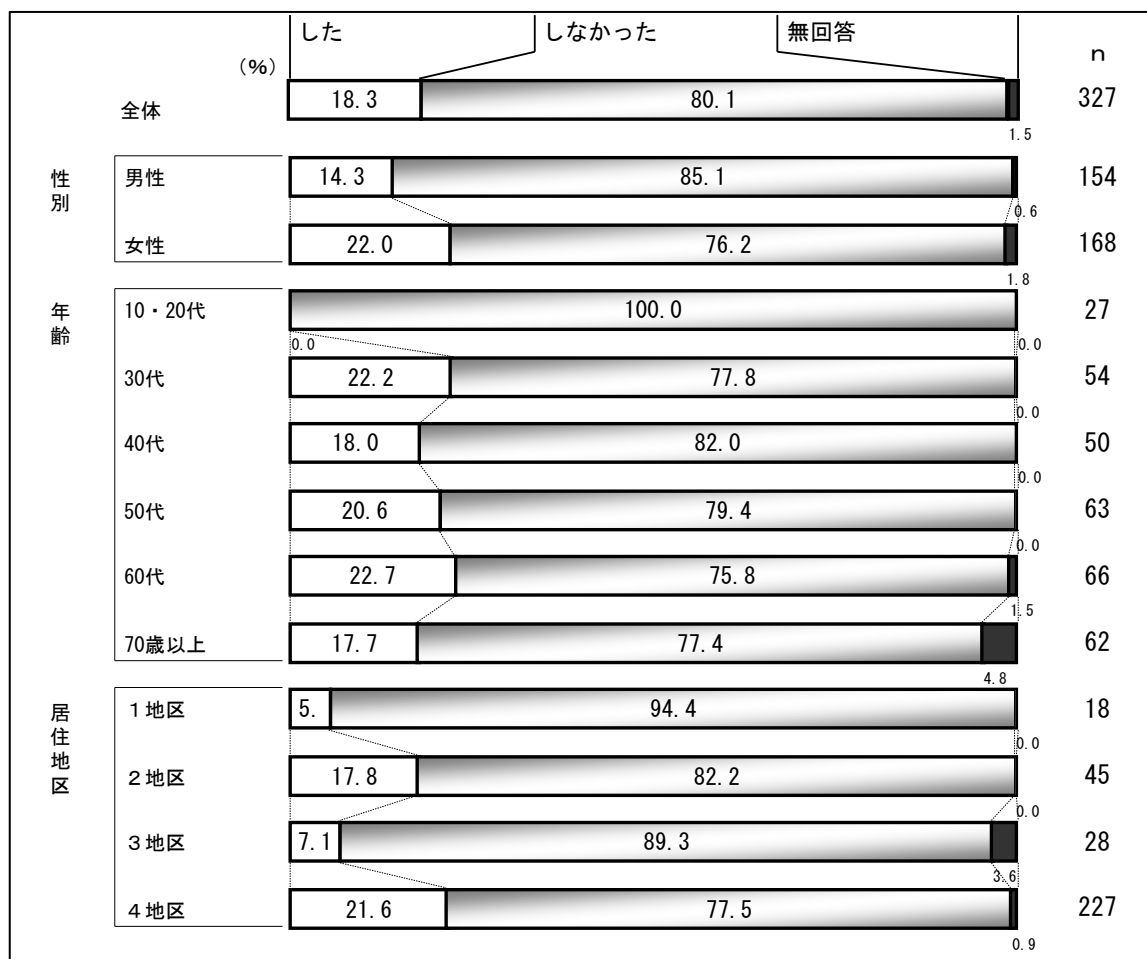
(11) 村の講座や教室等を利用した生涯学習活動

問 9 ① あなたは、この1年間に、村の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。

● 村の講座や教室等を利用した生涯学習活動を「した」人は18.3%。

村の講座や教室等を利用した生涯学習活動については、「しなかった」と答えた人が80.1%、「した」が18.3%となっています。

図表Ⅱ-24 村の講座や教室等を利用した生涯学習活動  
(全体・性別・年齢・居住地区)



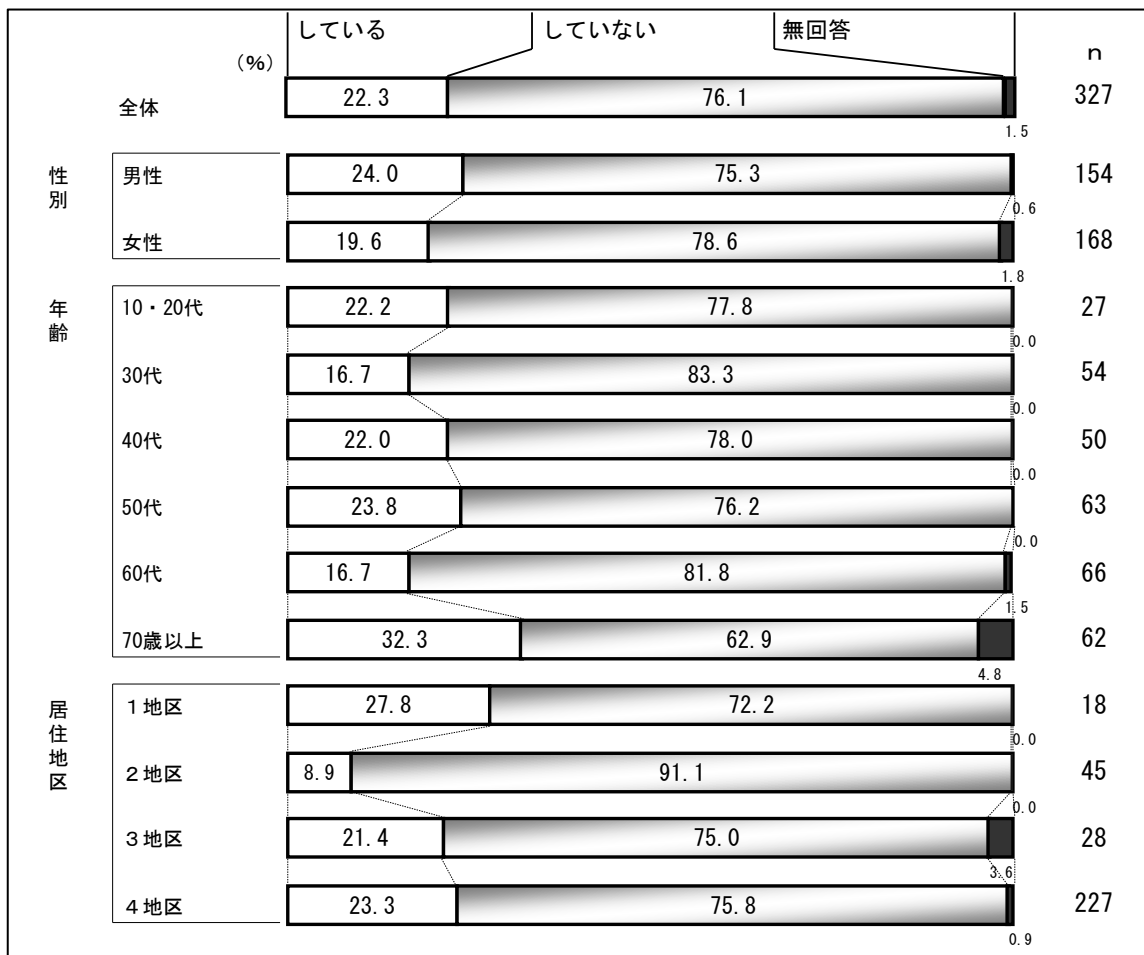
## (12) 週1回以上のスポーツ活動

問9⑫ あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。

● 週1回以上のスポーツ活動を「している」人は22.3%。

週1回以上のスポーツ活動については、「していない」と答えた人が76.1%、「している」と答えた人が22.3%となっています。

図表Ⅱ-25 週1回以上のスポーツ活動（全体・性別・年齢・居住地区）





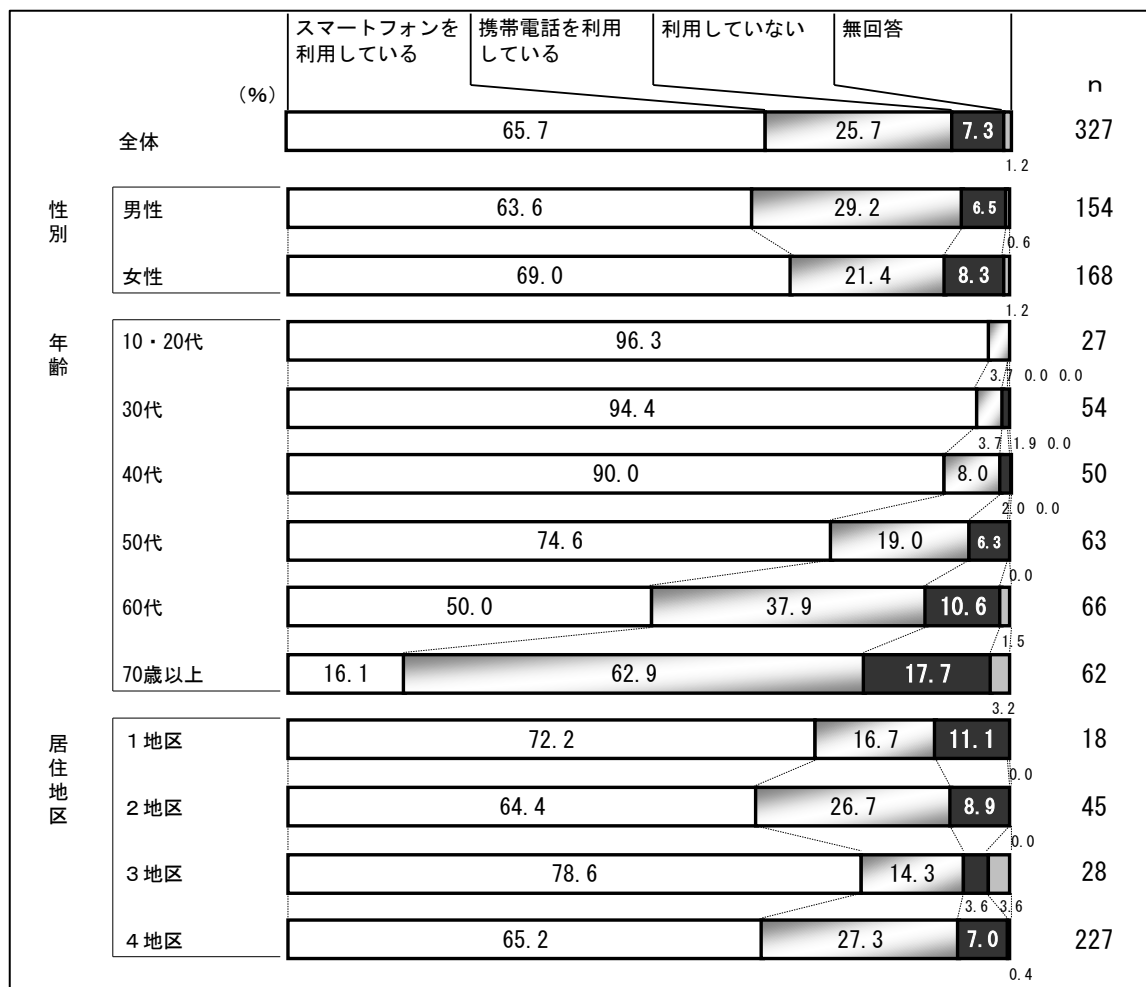
### (13) スマートフォンや携帯電話の利用

問9⑬ あなたは、スマートフォン（タブレットを含む）や携帯電話を利用していますか。（両方使用している場合は主に使用している方を選択してください。）

● スマートフォンや携帯電話の利用を「している」人は91.4%。

スマートフォンや携帯電話の利用については、「スマートフォンを利用している」と答えた人が65.7%、「携帯電話を利用している」と答えた人が25.7%で、これらをあわせたスマートフォンや携帯電話の利用を「している」人は91.4%となっています。一方、「利用していない」と答えた人が7.3%となっています。

図表Ⅱ-26 スマートフォンや携帯電話の利用（全体・性別・年齢・居住地区）



## 4. 参画・協働の村づくりについて

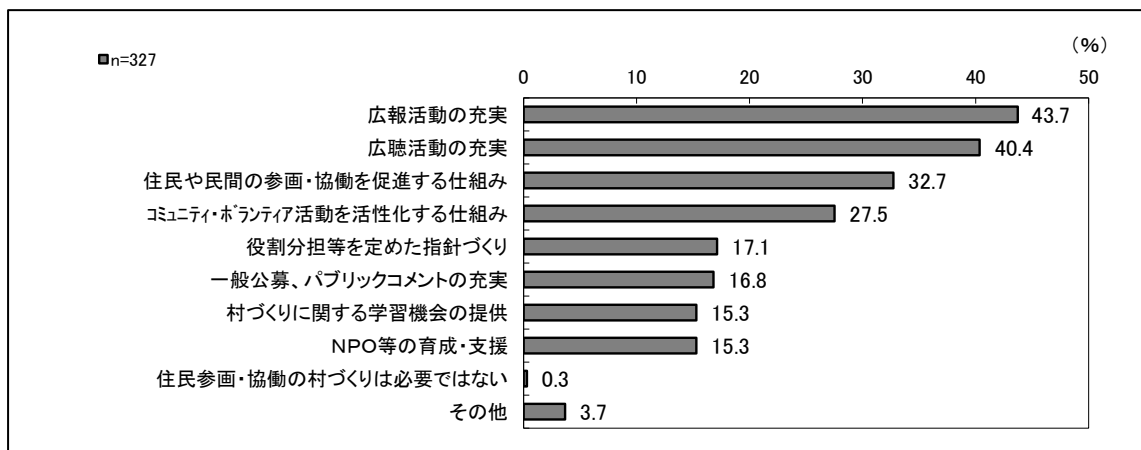
### (1) 住民参画・協働の村づくりを進めるために必要なこと

問 10 これからの村づくりにおいては、より多くの住民の皆様が村政に参画し、行政と協力して課題解決や地域づくりを行う「住民参画・協働の村づくり」が重要なテーマとなります。あなたは、この「住民参画・協働の村づくり」を進めるために行政として必要なことはどのようなことだと思いますか。【複数回答】

- 「広報活動の充実」が第1位。次いで「広聴活動の充実」、「住民や民間の参画・協働を促進する仕組み」、「コミュニティ・ボランティア活動を活性化させる仕組み」の順。

住民参画・協働の村づくりを進めるために必要なことについては、「広報活動の充実」(43.7%)が第1位にあげられ、次いで「広聴活動の充実」(40.4%)が第2位、「住民や民間の参画・協働を促進する仕組み」(32.7%)が第3位、「コミュニティ・ボランティア活動を活性化させる仕組み」(27.5%)が第4位となっています。以下、「役割分担等を定めた指針づくり」(17.1%)、「一般公募、パブリックコメントの充実」(16.8%)、「村づくりに関する学習機会の提供」・「NPO等の育成・支援」(同率15.3%)の順となっています。

図表Ⅱ-27 住民参画・協働の村づくりを進めるために必要なこと（全体／複数回答）



図表Ⅱ-28 住民参画・協働の村づくりを進めるために必要なこと  
 (全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		広報活動の充実 43.7	広聴活動の充実 40.4	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 32.7
性別	男性	広報活動の充実／広聴活動の充実 45.5		住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 33.8
	女性	広報活動の充実 42.3	広聴活動の充実 36.3	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 31.5
年齢	10・20代	広報活動の充実 51.9	広聴活動の充実 44.4	一般公募、パブリックコメントの充実／住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 29.6
	30代	広聴活動の充実 46.3	広報活動の充実 44.4	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 35.2
	40代	広報活動の充実 54.0	広聴活動の充実 42.0	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 36.0
	50代	広報活動の充実／コミュニティ・ボランティア活動を活性化する仕組み 38.1		広聴活動の充実／住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 31.7
	60代	広報活動の充実 47.0	広聴活動の充実 37.9	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 30.3
	70歳以上	広聴活動の充実 43.5	広報活動の充実 33.9	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 30.6
	居住地区	1地区	広聴活動の充実 50.0	広報活動の充実 33.3
2地区		広聴活動の充実 60.0	広報活動の充実 48.9	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 20.0
3地区		広報活動の充実 46.4	広聴活動の充実 39.3	一般公募、パブリックコメントの充実 32.1
4地区		広報活動の充実 44.5	住民や民間の参画・協働を促進する仕組み 36.6	広聴活動の充実 35.2

## 5. 人口減少対策について

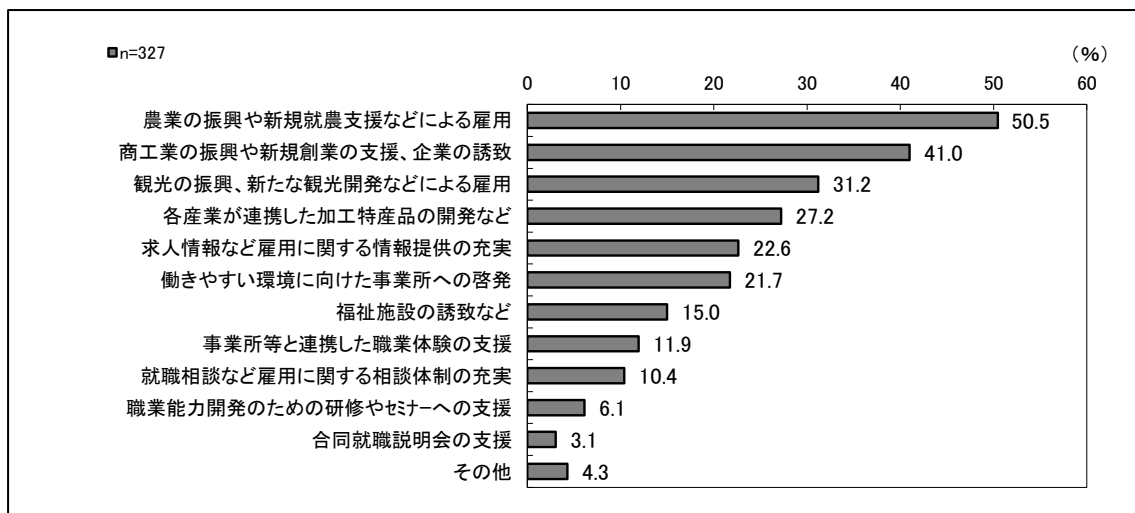
### (1) 村内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと

問 11 あなたは、村内及び近隣町村での「雇用」を創出するため、村としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 「農業の振興や新規就農支援などによる雇用」が第1位。次いで「商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致」、「観光の振興、新たな観光開発などによる雇用」、「各産業が連携した加工特産品の開発など」の順。

村内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきことについては、「農業の振興や新規就農支援などによる雇用」(50.5%)が第1位にあげられ、次いで「商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致」(41.0%)が第2位、「観光の振興、新たな観光開発などによる雇用」(31.2%)が第3位、「各産業が連携した加工特産品の開発など」(27.2%)が第4位となっています。以下、「求人情報など雇用に関する情報提供の充実」(22.6%)、「働きやすい環境に向けた事業所への啓発」(21.7%)、「福祉施設の誘致など」(15.0%)、「事業所等と連携した職業体験の支援」(11.9%)、「就職相談など雇用に関する相談体制の充実」(10.4%)、「職業能力開発のための研修やセミナーへの支援」(6.1%)などの順となっています。

図表Ⅱ-29 村内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと（全体／複数回答）



図表Ⅱ-30 村内及び近隣での雇用創出のために力を入れるべきこと  
 (全体・性別・年齢・居住地区－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		農業の振興や新規就農支援などによる雇用 50.5	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 41.0	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 31.2
性別	男性	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 56.5	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 44.8	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 35.7
	女性	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 45.2	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 38.1	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 26.8
年齢	10・20代	求人情報など雇用に関する情報提供の充実 51.9	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 48.1	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 33.3
	30代	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 48.1	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 44.4	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 35.2
	40代	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 54.0	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 48.0	働きやすい環境に向けた事業所への啓発 34.0
	50代	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 63.5	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致／各産業が連携した加工特産品の開発など 38.1	
	60代	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 53.0	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 45.5	各産業が連携した加工特産品の開発など 30.3
	70歳以上	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 48.4	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 40.3	各産業が連携した加工特産品の開発など 32.3
居住地区	1地区	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 44.4	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 38.9	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 33.3
	2地区	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 66.7	各産業が連携した加工特産品の開発など 40.0	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 37.8
	3地区	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 64.3	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 35.7	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 32.1
	4地区	農業の振興や新規就農支援などによる雇用 47.1	商工業の振興や新規創業の支援、企業の誘致 44.5	観光の振興、新たな観光開発などによる雇用 32.2

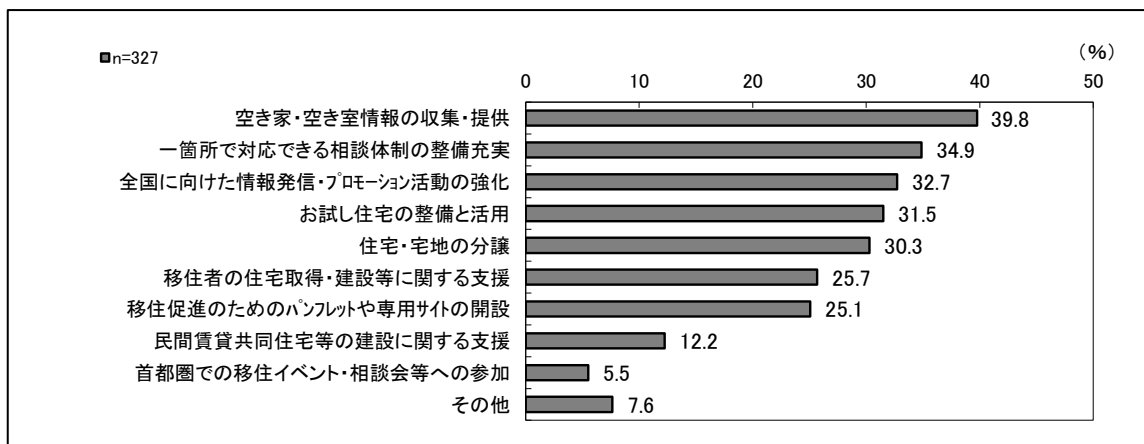
## (2) 村外からの移住促進のために力を入れるべきこと

問 12 あなたは、村外から留寿都村への「移住」を促進するため、村としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

- 「空き家・空き室情報の収集・提供」、「一箇所で対応できる相談体制の整備充実」、「全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化」の順。

村外からの移住促進のために力を入れるべきことについてたずねたところ、「空き家・空き室情報の収集・提供」と答えた人が39.8%と4割弱にのぼり、次いで「一箇所で対応できる相談体制の整備充実」(34.9%)が第2位、「全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化」(32.7%)が第3位、「お試し住宅の整備と活用」(31.5%)が第4位となっています。以下、「住宅・宅地の分譲」(30.3%)、「移住者の住宅取得・建設等に関する支援」(25.7%)、「移住促進のためのパンフレットや専用サイトの開設」(25.1%)、「民間賃貸共同住宅等の建設に関する支援」(12.2%)などの順となっています。

図表Ⅱ-31 村外からの移住促進のために力を入れるべきこと（全体／複数回答）



図表Ⅱ-32 村外からの移住促進のために力を入れるべきこと  
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		空き家・空き室情報の収集・提供 39.8	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 34.9	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 32.7
性別	男性	住宅・宅地の分譲 40.3	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 38.3	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化／空き家・空き室情報の収集・提供 37.7
	女性	空き家・空き室情報の収集・提供 41.7	お試し住宅の整備と活用 38.1	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 32.7
年齢	10・20代	空き家・空き室情報の収集・提供 44.4	移住促進のためのパンフレットや専用サイトの開設 40.7	お試し住宅の整備と活用 37.0
	30代	空き家・空き室情報の収集・提供 50.0	住宅・宅地の分譲 35.2	一箇所に対応できる相談体制の整備充実／お試し住宅の整備と活用 33.3
	40代	空き家・空き室情報の収集・提供 46.0	住宅・宅地の分譲 38.0	一箇所に対応できる相談体制の整備充実／お試し住宅の整備と活用 34.0
	50代	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 50.8	お試し住宅の整備と活用 42.9	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 36.5
	60代	空き家・空き室情報の収集・提供 37.9	移住者の住宅取得・建設等に関する支援 34.8	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 33.3
	70歳以上	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 40.3	空き家・空き室情報の収集・提供 37.1	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 29.0
居住地区	1地区	住宅・宅地の分譲 61.1	空き家・空き室情報の収集・提供 44.4	移住者の住宅取得・建設等に関する支援 38.9
	2地区	お試し住宅の整備と活用 35.6	移住促進のためのパンフレットや専用サイトの開設 33.3	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 31.1
	3地区	空き家・空き室情報の収集・提供 50.0	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 39.3	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化 35.7
	4地区	空き家・空き室情報の収集・提供 40.5	一箇所に対応できる相談体制の整備充実 35.2	全国に向けた情報発信・プロモーション活動の強化／お試し住宅の整備と活用 33.5

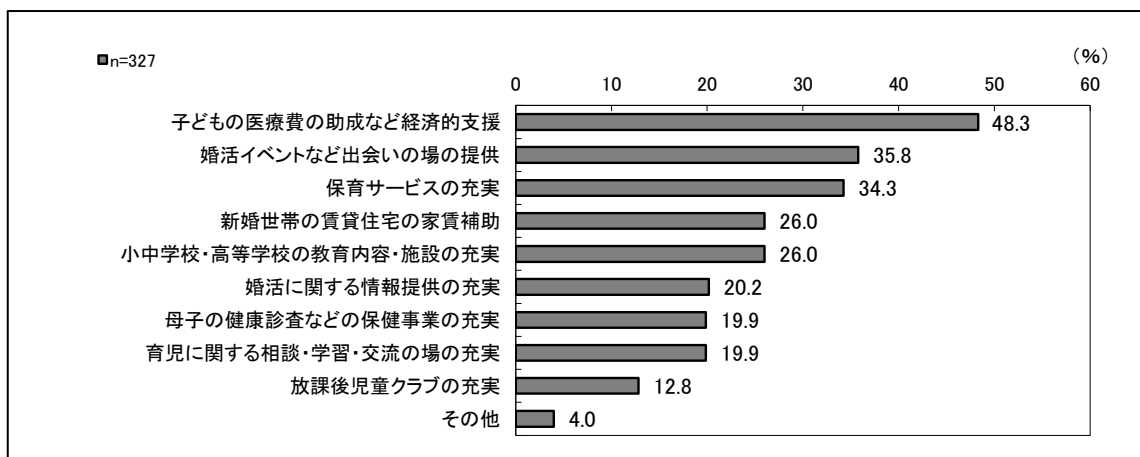
### (3) 住民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと

問 13 あなたは、住民の「結婚・出産・子育て」の希望をかなえるため、村としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

- 「子どもの医療費の助成など経済的支援」が第1位。

住民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきことについては、「子どもの医療費の助成など経済的支援」と答えた人が 48.3%と5割弱を占め、次いで、「婚活イベントなど出会いの場の提供」(35.8%)が続き、以下、「保育サービスの充実」(34.3%)、「新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助」・「小中学校・高等学校の教育内容・施設の充実」(同率 26.0%)、「婚活に関する情報提供の充実」(20.2%)、「母子の健康診査などの保健事業の充実」・「育児に関する相談・学習・交流の場の充実」(同率 19.9%)などの順となっています。

図表Ⅱ-33 住民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと（全体／複数回答）





図表Ⅱ-34 住民の結婚・出産・子育てのため力を入れるべきこと  
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		子どもの医療費の助成など経済的支援 48.3	婚活イベントなど出会いの場の提供 35.8	保育サービスの充実 34.3
性別	男性	子どもの医療費の助成など経済的支援 51.3	婚活イベントなど出会いの場の提供 41.6	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 31.2
	女性	子どもの医療費の助成など経済的支援 46.4	保育サービスの充実 37.5	婚活イベントなど出会いの場の提供 31.0
年齢	10・20代	子どもの医療費の助成など経済的支援 51.9	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 48.1	小中学校・高等学校の教育内容・施設の充実 37.0
	30代	子どもの医療費の助成など経済的支援 70.4	保育サービスの充実 53.7	婚活イベントなど出会いの場の提供 35.2
	40代	子どもの医療費の助成など経済的支援 48.0	保育サービスの充実 42.0	小中学校・高等学校の教育内容・施設の充実 42.0
	50代	子どもの医療費の助成など経済的支援 54.0	婚活イベントなど出会いの場の提供 36.5	新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 33.3
	60代	婚活イベントなど出会いの場の提供 39.4	子どもの医療費の助成など経済的支援 37.9	保育サービスの充実 28.8
	70歳以上	婚活イベントなど出会いの場の提供 40.3	子どもの医療費の助成など経済的支援 37.1	婚活に関する情報提供の充実／母子の健康診査などの保健事業の充実 27.4
居住地区	1地区	保育サービスの充実 38.9	子どもの医療費の助成など経済的支援 33.3	婚活イベントなど出会いの場の提供／新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助／放課後児童クラブの充実 27.8
	2地区	子どもの医療費の助成など経済的支援 57.8	婚活イベントなど出会いの場の提供 55.6	婚活に関する情報提供の充実／新婚世帯の賃貸住宅の家賃補助 26.7
	3地区	保育サービスの充実 42.9	婚活イベントなど出会いの場の提供／子どもの医療費の助成など経済的支援 39.3	
	4地区	子どもの医療費の助成など経済的支援 50.2	保育サービスの充実 37.9	婚活イベントなど出会いの場の提供 31.3

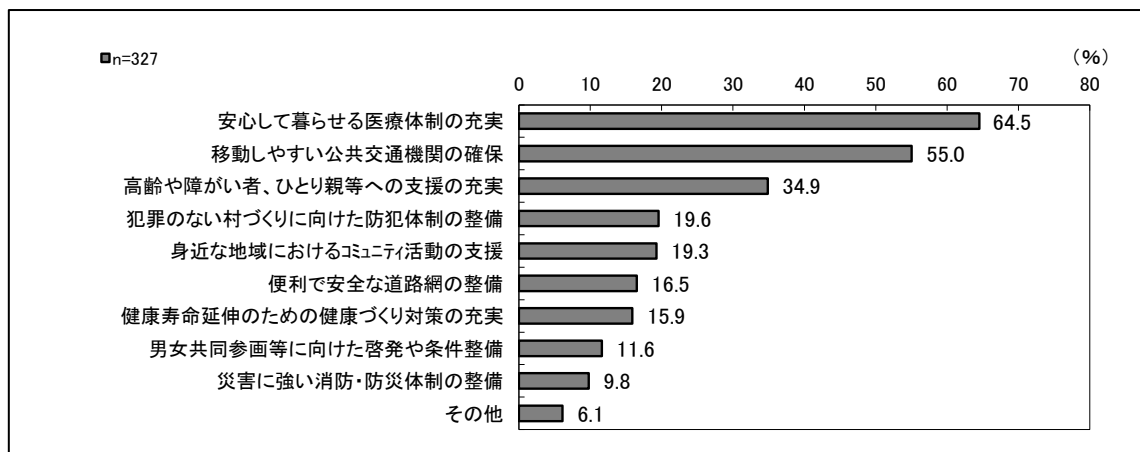
#### (4) 住み続けたい生活環境整備のため力を入れるべきこと

問 14 あなたは、住民が「住み続けたい生活環境」を整備するため、村としてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 「安心して暮らせる医療体制の充実」が第1位。

住み続けたい生活環境整備のため力を入れるべきことについては、「安心して暮らせる医療体制の充実」と答えた人が64.5%で最も多く、次いで「移動しやすい公共交通機関の確保」(55.0%)が続き、以下、「高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実」(34.9%)、「犯罪のない村づくりに向けた防犯体制の整備」(19.6%)、「身近な地域におけるコミュニティ活動の支援」(19.3%)、「便利で安全な道路網の整備」(16.5%)、「健康寿命延伸のための健康づくり対策の充実」(15.9%)、「男女共同参画等に向けた啓発や条件整備」(11.6%)、「災害に強い消防・防災体制の整備」(9.8%)などの順となっています。

図表Ⅱ-35 住み続けたい生活環境整備のため力を入れるべきこと（全体／複数回答）



図表Ⅱ-36 住み続けたい生活環境整備のため力を入れるべきこと  
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		安心して暮らせる医療体制の充実 64.5	移動しやすい公共交通機関の確保 55.0	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 34.9
性別	男性	安心して暮らせる医療体制の充実 61.0	移動しやすい公共交通機関の確保 52.6	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 39.0
	女性	安心して暮らせる医療体制の充実 68.5	移動しやすい公共交通機関の確保 57.1	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 31.5
年齢	10・20代	安心して暮らせる医療体制の充実 85.2	移動しやすい公共交通機関の確保 66.7	便利で安全な道路網の整備 29.6
	30代	安心して暮らせる医療体制の充実 72.2	移動しやすい公共交通機関の確保 59.3	犯罪のない村づくりに向けた防犯体制の整備 33.3
	40代	安心して暮らせる医療体制の充実 62.0	移動しやすい公共交通機関の確保 60.0	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 40.0
	50代	安心して暮らせる医療体制の充実 58.7	移動しやすい公共交通機関の確保 52.4	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 34.9
	60代	安心して暮らせる医療体制の充実 63.6	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 50.0	移動しやすい公共交通機関の確保 48.5
	70歳以上	安心して暮らせる医療体制の充実 61.3	移動しやすい公共交通機関の確保 53.2	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 32.3
居住地区	1地区	安心して暮らせる医療体制の充実 83.3	移動しやすい公共交通機関の確保 55.6	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 38.9
	2地区	安心して暮らせる医療体制の充実 60.0	移動しやすい公共交通機関の確保 44.4	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 33.3
	3地区	安心して暮らせる医療体制の充実 57.1	移動しやすい公共交通機関の確保 50.0	身近な地域におけるコミュニティ活動の支援／高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 25.0
	4地区	安心して暮らせる医療体制の充実 67.0	移動しやすい公共交通機関の確保 59.0	高齢や障がい者、ひとり親等への支援の充実 35.7